

前原団地1号棟屋根・外壁改修工事

図面番号	図 面 名 称	縮 尺
A-01	特記仕様書（その1）	
A-02	特記仕様書（その2）	
A-03	特記仕様書（その3）	
A-04	特記仕様書（その4）	
A-05	特記仕様書（その5）	
A-06	特記仕様書（その6）	
A-07	1号棟 案内図，配置図	1／500
A-08	1号棟 1階平面図	1／150
A-09	1号棟 2階平面図	1／150
A-10	1号棟 3階平面図	1／150
A-11	1号棟 屋根伏図	1／150
A-12	1号棟 立面図 1	1／200
A-13	1号棟 立面図 2	1／200
A-14	1号棟 平面詳細図	1／50
A-15	1号棟 断面詳細図	1／50
A-16	1号棟 階段断面詳細図	1／50
A-17	1号棟 建具キープラン，建具表	1／100
E-01	1号棟 1階階段照明更新図	1／150
E-02	1号棟 2階階段照明更新図	1／150
E-03	1号棟 3階階段照明更新図	1／150
E-04	1号棟 1階階段照明撤去図	1／150
E-05	1号棟 2階階段照明撤去図	1／150
E-06	1号棟 3階階段照明撤去図	1／150



前原団地 1 号棟屋根・外壁改修工事 特記仕様書

- 1-32 暴力団員等による不当介入を受けた場合の措置**
（１）栃木県が発注する建設工事（以下「発注工事」という。）において、暴力団員等による不当要求または工事妨害（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、断固としてこれを拒否するとともに、不当介入があった時点で速やかに警察に通報を行い、捜査上必要な協力を行うこと。
（２）（１）により警察に通報を行い、捜査上必要な協力を行った場合には、速やかにその内容を記載した書面により発注者に報告すること。
（３）発注工事において、暴力団員等により不当介入を受けたことにより工程に遅れが生じるなどの被害が生じた場合には、発注者と協議を行うこと。

- 1-33 工事の一時中止**
（１）契約書第 21 条の規定により工事の一時中止の通知を受けた場合は、中止期間中における工事現場の管理に関する計画（以下「基本計画書」という。）を発注者に提出し、承諾を受けるものとする。なお、基本計画書には、中止時点における工事の出来形、職員の体制、労務者数、搬入材料及び建設機械器具等の確認に関すること、中止に伴う工事現場の体制の縮小と再開に関すること及び工事現場の維持・管理に関する基本的事項を明らかにする。
（２）工事の施工を一時中止する場合は、工事の続行に備え工事現場を保全すること。

- 1-34 墜落制止用器具の着用**
「労働安全衛生法施行令第 13 条第 3 項第 28 号」における墜落制止用器具の着用は、「墜落制止用器具の規格」（平成 31 年 1 月 25 日厚生労働省告示第 11 号）による墜落制止用器具（フルハーネス型墜落制止器具）とする。

2 章 仮設工事

- 2-1 監督職員事務所等 (2.4.1)**
・設ける ◎設けない
監督職員事務所規模 ・ 10 m 程度 ・ 20 m 程度 ・ 35 m 程度 ・ 65 m 程度 ・ 100 m 程度
備品 種類・数量（ ）

- 2-2 工事用水**
構内既存の施設 ・ 利用できない ◎利用できる（◎有償 ・ 無償）

- 2-3 工事用電力**
構内既存の施設 ・ 利用できない ◎利用できる（◎有償 ・ 無償）

- 2-4 足場その他 (2.2.1)**
内部足場 ◎設ける（◎脚立、足場板等 ・ ） ・ 設けない
外部足場 ◎設ける ・ 設けない
足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「動きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する足場とし、足場の組立て、解体または変更の作業時及び使用時には、常時同ガイドラインの別紙 1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の 2 の（２）手すり据置方式または（３）手すり先行専用足場方式により行う。
なお、これにより難い場合は監督職員と協議すること。
・本工事で定置したものを別契約の関係請負者が無償で利用できる。
防護シートによる養生 ◎行う ・ 行わない
材料、撤去材等の運搬 ・ A 種 ◎B 種 ・ C 種 ・ D 種 ・ E 種

- 2-5 養生 (2.3.1)**
既存部分の養生 ◎ビニールシート等 ・ 合板等
既存家具等の養生 ◎ビニールシート等 ・
固定家具等の移動 ◎行わない ・ 行う（図示）

- ・ 2-6 仮設間仕切 (2.3.2)**
仮設間仕切り等の種別
- | 種別 | 下地 | 仕上材（厚さmm） | 充填材（厚さ） | 塗装 |
|-------|---------------|------------------------|---------------|-----------|
| ・ A 種 | ◎軽量鉄骨 | ・ 合板（◎9.0 ・ ） | ・ グラスウール（ mm） | ◎無 |
| ・ B 種 | ・ 木下地 | ◎せつこうボード（◎9.5 ・ ） | | ・ 片面 |
| ◎C 種 | ◎単管下地 | ◎防炎シート | | — |
| 仮設扉 | ◎木製扉
・ 鋼製扉 | ◎合板張り程度
・ 片面フラッシュ程度 | | ◎無
・ 有 |

3 章 防水改修工事

- ・ 3-1 アスファルト防水 (3.2.2.5) (3.3.2.3) (表 3.1.1) (表 3.3.3～10)**
- | 工法 | 施工箇所 | 種別 |
|--------------------|----------------------------|------------------------|
| 屋根保護
防水絶縁 | ・ P1B | ・ B-1 ◎B-2 ・ B-3 |
| | ・ P1B1 ・ T1B1 | ・ B1-1 ◎B1-2 ・ B1-3 |
| | ・ P2A1 | ・ A1-1 ◎A1-2 ・ A1-3 |
| | ・ P2A | ・ A-1 ◎A-2 ・ A-3 |
| 屋根露出
防水 | ・ M4C | ・ C-1 ◎C-2 ・ C-3 ・ C-4 |
| | ・ M3D・POD | ・ D-1 ◎D-2 ・ D-3 ・ D-4 |
| 屋根露出
防水絶縁
断熱 | ・ POD1
・ M3D1
・ M4D1 | ・ D1-1 ◎D1-2 |
| | ・ P1E ・ P2E | ・ E-1 ◎E-2 |
| | | （保護層は図示による） |

アスファルトの種類 ◎3 種
改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
◎改修標仕表 3.3.3 から表 3.3.9 による ・
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
◎改修標仕表 3.3.3 から表 3.3.9 による ・
保護コンクリートのコンクリート種類 ・
POD 工法の改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない
M3D、POD 工法の脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない
P1E、P2E 工法の保護層 ・ 設ける ・ 設けない
既存露出防水層表面の仕上げ塗装（M4 C 工法の場合） ・ 除去する
断熱工法の断熱材 材質（ ）厚さ（mm）（ ）
立上り部の保護
・ れんがの種類 ◎普通れんが（JIS R 1250）
・ 乾式保護材の材料 ◎押出成形セメント板厚さ 15 mm

屋根防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置
◎図示 ・
屋根排水溝 ◎図示 ・
脱気装置の種類及び設置数量
◎アスファルトルーフィング類製造所の指定による
・ 脱気装置の種類（ ） ・ 設置数量（ ）個/m²

- ・ 3-2 改質アスファルトシート防水 (3.4.2.3) (表 3.1.1) (表 3.4.1～3)**
- | 工法 | 施工箇所 | 種別 |
|--|------|-------------------------|
| ・ M4AS 工法 | | ・ AS-T1 ・ AS-T2 ・ AS-J2 |
| ・ M3AS 工法
・ POAS 工法 | | ・ AS-T3 ・ AS-T4 |
| ・ M4AS1 工法
・ M3AS1 工法
・ POAS1 工法 | | ・ AS-J1 ・ AS-J3 |

脱気装置の種類及び設置数量
◎アスファルトルーフィング類製造所の指定による
・ 脱気装置の種類（ ） ・ 設置数量（ ）個/m²
防湿層 ◎設けない ・ 設ける
改質アスファルトシートの種類及び厚さ
◎改修標仕表 3.4.1 から表 3.4.3 による ・
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
◎改修標仕表 3.4.1 から表 3.4.3 による ・

- ・ 3-3 合成高分子系ルーフィングシート防水 (3.5.2～4) (表 3.5.1,2)**
- | 工法 | 施工場所 | 種別 | 仕上げ塗料等 | 使用分類 |
|--|------|------------------------------------|-----------------|---------------|
| ・ POS 工法
・ SAS 工法 | | ・ S-F1 ・ S-F2 ・ S-M1
・ S-M2 | ・ カラー
・ シルバー | ◎非歩行
・ 軽歩行 |
| ・ S3S 工法 | | ・ S-F1 ・ S-F2 | | |
| ・ MAS 工法 | | ・ S-M1 ・ S-M2 ・ S-M3 | | |
| ・ POS1 工法
・ S3S1 工法
・ SAS1 工法
・ MAS1 工法 | | ・ S1-F1 ・ S1-F2
・ S1-M1 ・ S1-M2 | | |

脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない
目地処理 PC コンクリートの場合（ ）
ルーフィングシートの種類及び厚さ ◎改修標仕表 3.5.1 から表 3.5.2 による
脱気装置の種類及び設置数量
◎アスファルトルーフィング類製造所の指定による
・ 脱気装置の種類（ ） ・ 設置数量（ ）個/m²
断熱工法の断熱材 材質（ ）厚さ（mm）（ ）
S1-M1 及び S1-M2 の場合の防湿フィルムの設置 ◎設置する（厚さ 0.15mm） ・ 設置しない
屋内防水
防水層の種別

種別	施工箇所	保護層			立上り部の保護材 外塗り厚さ
		平場の防水塗り			
		塗り厚さ	・床塗り工法	・下地材の塗り 外塗り厚さ	
・S-C1			◎標仕 15.3.5(2) (4) 及び(4) に準ず る	◎標仕 15.3.5(4) (7) に準ずる	◎7mm 以下

屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ ・
機械的固定工法の場合
・ 建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法

- 3-4 塗膜防水 (3.6.3) (表 3.1.1) (表 3.6.1,2) (3.2.6)**
- | 工法 | 施工場所 | 種別 | 仕上げ塗料塗り | 高日射反射率防水 |
|----------|------|-----------------------------|-----------------|----------|
| ・ POX 工法 | | ◎X-1 ・ X-2
・ X-1H ・ X-2H | ・ カラー
・ シルバー | ・ |
| ●S×S×工法 | | ・ X-1 ◎X-2
・ X-1H ・ X-2H | ●カラー | |
| ・ PIY 工法 | | ◎Y-2 ・ | | |
| ・ P2Y 工法 | | ◎Y-2 ・ | | |

既存塗膜防水層表面の仕上げ塗装（L4X 工法の場合） ・ 除去する
コルマファルト系塗膜防水の保護層 ・ 設けない ・ 設ける
脱気装置の種類及び設置数量
◎アスファルトルーフィング類製造所の指定による
・ 脱気装置の種類（ ） ・ 設置数量（ ）個/m²

- 3-5 シーリング (3.1.4,3) (3.7.2,8) (表 3.1.2) (表 3.7.1)**
シーリング改修工法の種類
◎シーリング再充填工法 ・ シーリング充填工法
・ 拡幅シーリング再充填工法 ・ブリッジ工法
シーリング材の種類、施工箇所
◎下表以外は、改修標仕表 3.7.1 を標準とする
- | 施工箇所 | シーリング材の種類（記号） | 幅 | 深さ |
|-----------|---------------|-------|----|
| 外壁目地、建具廻り | 変成シリコン系MS-2 | 25、15 | 10 |

接着性試験 ◎行う（◎簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験） ・ 行わない

- ・ 3-6 とい (3.8.2,3) (表 3.8.1)**
といの材種
・ 配管用鋼管 ・ 硬質塩化ビニル管
・ 着色亜鉛メッキ鋼板 ・ ステンレス鋼板
鋼管製といの防露〔G〕 ・ 次の箇所は行わない（
防露材のホルムアルデヒド放散量 ◎規制対象外 ・ 第三種
掃除口 ◎有 ・ 無

- ・ 3-7 アルミニウム製笠木 (3.9.2) (表 3.9.1)**
- | 種類 | 呼称肉厚
(mm) | 表面処理 | 固定間隔 | 備考 |
|--|----------------------------|--|-------------------------|---------------------------------|
| ・ 250 形
・ 300 形
・ 350 形 | 1.6 以上
1.8 以上
2.0 以上 | 種別（ ）種
着色
（・アルバー ・ プロンズ
・ プラッキ系 ・ ステンカラー） | 固定方法及び間隔
は品質計画で定めたもの | 隅角部及び突当たり
部等の役物は本体製造所の仕様による。 |
| 板材折曲げ形の取付け工法 ・ 図示
工法 既存笠木等の撤去 ・ 行う（範囲 ◎図示 ・ ）
下地補修の方法 ◎図示
板材折り曲げ形の笠木の取付方法 ◎図示 | | | | |
| 固定金具
・ 建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法 | | | | |

- ・ 3-8 長尺金属板葺き (標仕 13.2.2,3) (標仕表 13.2.1)**
- | 屋根葺き形式 | 長尺金属板の種類 | 塗装の耐久性、めっき付着量
等の種類及び記号 | 板厚
(mm) |
|--|--|---------------------------|------------|
| ・ | ◎JIS G 3322（塗装熔融 55%7mm以下
一亜鉛合金めっき銅板及び銅帯） | | ・ |
| 屋根葺工法 ◎図示 ・ 建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法 | | | |

- ・ 3-9 折板葺 (標仕 13.2.2) (標仕 13.3.2,3) (標仕表 13.2.1)**
- | | |
|--|---|
| 形式
形状（mm）
材料（規格等）
耐力
軒先戸板
断熱材
耐火性能
塗装の耐久性、めっき付着
量等の種類及び記号
タイトフレームに JIS G 3302 以外の鋼材を直接外気の影響を受けない屋内で使用する場合の表面処理
（標仕表 14.2.2 による ・ E 種 ・ F 種）
屋根葺工法
・ 建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法 | ◎重ね形 ・ はげ締め形 ・ かん合形
山高（ ） 山ピッチ（ ） 板厚 ◎0.6 ・ 0.8
◎標仕表 13.2.1 による（ ） ・
・ 有 ・ 無
・ 有（種別 ・ 厚さ mm） ・ 無
・ 有（30 分耐火） ・ 無 |
|--|---|

- 3-10 保証書**
責任施工の保証書を完了後速やかに提出する。（受注者、専門施工業者及び材料製造者の連名による）
保証年限は下記による。
- | 種別 | 保証年限 | 種別 | 保証年限 |
|---------------------|------|------------|------|
| ・ アスファルト防水 | 年 | ●塗膜防水 | 年 |
| ・ 改質アスファルト防水 | 年 | ・ リン酸系塗布防水 | 年 |
| ・ 合成高分子系ルーフィングシート防水 | 年 | | |

4 章 外壁改修工事 共通事項

- 4-1 施工数量調査 (1.6.2)**
調査範囲
調査内容
◎外壁改修範囲 ・ 図示の範囲
ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、
漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。
モルタル壁仕上げ及びタイル張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、
また欠損部の形状寸法等を調査する。
コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。
塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。また、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。
◎2 部 ・

- 4-2 改修材料 (4.2.4) (4.3.5) (4.4.5) (4.5.2) (4.6.2) (4.7.2)**
既製調合モルタル、バテ状エポキシ樹脂、可とう性エポキシ樹脂、タイル部分張替え工法用材料、エポキシ樹脂モルタル、ポリマーセメントモルタル、吸水調整材等の材料は評価名簿による。
- | 広がり速度 | 長さ変化率
（収縮） | 引張接着性
（材齢 28 日） | 曲げ性能
（材齢 28 日） | 吸水性
（72 時間） | 耐久性
（劣化曲げ強さ） |
|----------------------------------|---------------|-------------------------|-------------------------|----------------|-------------------------|
| 3cm/s 以上 | 3%以下 | 0.5N/mm ² 以上 | 5.0N/mm ² 以上 | 15%以下 | 5.0N/mm ² 以上 |
| 保水係数 0.35～0.55
粘調係数 0.50～1.00 | | | | | |

4-1 章 外壁改修工事 コンクリート打ち放し仕上げ外壁

- 4-1-1 ひび割れ部改修工法 (4.1.4) (4.2.4～7)**
・ 樹脂注入工法
- | 注入工法の種類 | ひび割れ幅（mm） | 注入口間隔
(mm) | 注入量
(ml/m) | 備考 |
|--|-----------------------------------|---------------------------------|--------------------------|----|
| ◎自動式低圧エポキシ
注入工法 | 0.2 以上～1.0 以下
（挙動のあるひび割れを除く） | ◎200～300 | ・ | |
| ・ 自動式エポキシ樹脂
注入工法
・ 機械式エポキシ樹脂
注入工法 | 0.2 以上～1.0 以下
（挙動のあるひび割れを除く） | ◎50～100
◎100～200
◎150～250 | ◎40 ・
◎70 ・
◎130 ・ | |
| 注入材料
◎建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS A 6024 低粘度形または中粘度形）
検査（コア抜取り） ◎行わない ・ 行う（抜取り後の補修方法：
●Uカットシール材充填工法 | | | | |
| 充填材料 | 品質・規格等 | 備考 | | |
| ◎シーリング用材料 | ◎1 成分形または 2 成分形ポリウレタン系シーリング材
・ | ポリマーセメントモルタルの充填
◎行わない ・ 行う | | |
| ●可とう性エポキシ樹脂
・ シール工法
・ バテ状エポキシ樹脂
・ 可とう性エポキシ樹脂 | | | | |

- ・ 4-1-2 欠損部改修工法 (4.1.4) (4.2.4,8)**

◎充填工法
・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル

4-2 章 外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁

- ・ 4-2-1 既存モルタル塗りの撤去**
・ 行う（◎全面 ・ 図示の範囲）
- ・ 4-2-2 ひび割れ部改修工法 (4.1.4) (4.2.6) (4.3.5,6,8)**
・ 既存モルタル撤去工法（範囲は図示 撤去部分の補修は、4-2-3 欠損部改修工法による）
・ 樹脂注入工法（◎既存モルタル面 ・ 既存躯体コンクリート面）
樹脂注入工法
- | 注入工法の種類 | ひび割れ幅（mm） | 注入口間隔
(mm) | 注入量
(ml/m) | 備考 |
|---|----------------------------------|---------------------------------|--------------------------|----|
| ◎自動式低圧エポキシ
注入工法 | 0.2 以上～1.0 以下
（挙動のあるひび割れを除く） | ◎200～300 | ・ | |
| ・ 自動式エポキシ樹脂
注入工法
・ 機械式エポキシ樹脂
注入工法 | 0.2 以上～1.0 以下
（挙動のあるひび割れを除く） | ◎50～100
◎100～200
◎150～250 | ◎40 ・
◎70 ・
◎130 ・ | |
| 注入材料
◎建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS A 6024 低粘度形または中粘度形）
検査（コア抜取り） ◎行わない ・ 行う（抜取り後の補修方法：
・ Uカットシール材充填工法 | | | | |
| 充填材料 | 品質・規格等 | 備考 | | |
| ◎シーリング用材料 | 1 成分形または 2 成分形ポリウレタン系シーリング材
・ | ポリマーセメントモルタルの充填
・ ◎行わない ・ 行う | | |
| ・ 可とう性エポキシ樹脂
・ シール工法（◎既存モルタル面 ・ 既存躯体コンクリート面）
・ バテ状エポキシ樹脂
・ 可とう性エポキシ樹脂
・ 既存塗り仕上げ材の撤去及び補修（◎シール工法の範囲 ・ ） | | | | |

- ・ 4-2-3 欠損部改修工法 (4.1.4) (4.3.9,10)**
既存モルタル面の撤去部
- | 改修工法の種類 | 品質・規格等 | 備考 |
|-------------|-------------------|--|
| ・ 充填工法 | ポリマーセメントモルタル | |
| ・ モルタル塗替え工法 | 改修標仕 4.3.5(5) による | 塗り厚 25mm を超える場合の補強
◎行う（・ 図示） ・ 行わない |

既製目地材 ・ 適用する（形状 ◎図示 ・ ）

- 4-2-4 浮き部改修工法 (4.1.4) (4.3.9～16) (表 4.3.5,6)**
- | 改修工法の種類
（モルタルを撤去しない場合） | フカビシロツグの本数
（本/m ² ） | | 注入口の箇所数
（箇所/m ² ） | | 充填量 |
|-----------------------------------|-----------------------------------|----------|---------------------------------|----------|----------|
| | 一般部 | 指定部 | 一般部 | 指定部 | 注入量 |
| ・ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 | ◎16
・ | ◎25
・ | — | — | ◎25ml/箇所 |
| ・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 | ◎13
・ | ◎20
・ | ◎12
・ | ◎20
・ | ◎25ml/箇所 |
| ・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 | ◎13
・ | ◎20
・ | ◎12
・ | ◎20
・ | ◎50ml/箇所 |
| ●注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 | ◎9
・ | ◎16
・ | — | — | ◎25ml/箇所 |
| ・ 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 | ◎9
・ | ◎16
・ | ◎9
・ | ◎16
・ | ◎25ml/箇所 |
| ・ 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 | ◎9
・ | ◎16
・ | ◎9
・ | ◎16
・ | ◎50ml/箇所 |

- アンカーピン
材質 ◎ステンレス SUS304、呼び径 4mm の丸棒で全ネじ切り加工したもの
注入口付アンカーピン
材質 ◎ステンレス SUS304、呼び径外径 6mm 改修工法の種類
- | 改修工法の種類
（モルタルを撤去する場合） | 品質・規格等 | 備考 |
|--------------------------|--------------------------------|--|
| ・ 充填工法 | ・ ポリマーセメントモルタル
・ エポキシ樹脂モルタル | |
| ・ モルタル塗替え工法 | 改修標仕 4.3.5(5) による | 塗り厚 25mm を超える場合の補強
◎行う（・ 図示） ・ 行わない |

既製目地材 ・ 適用する（形状 ◎図示 ・ ）

工事名称	前原団地 1 号棟屋根・外壁改修工事	
図面名称／縮尺	特記仕様書（その 2）	図面番号
設計年月日	2025 年 10 月	A-02
設計者	一級建築士 大臣登録第 200584 号 大 高 智	
発注者	那須町ふるさと定住課	

前原団地 1 号棟屋根・外壁改修工事 特記仕様書

4－3 章 外壁改修工事 タイル張り仕上げ外壁

・4-3-1 既存タイル張りの撤去

・外壁タイル張り全面 ・図示の範囲
撤去範囲 ◎下地モルタルまで ・張付けモルタルまで ・タイルのみ

・4-3-2 ひび割れ部改修工法 (4.1.4) (4.2.5) (4.4.6)

改修箇所 ◎既存タイル張り面 ・既存タイル撤去面（・コンクリート ・モルタル面）
◎樹脂注入工法（◎既存モルタル面 ・既存躯体コンクリート面）

注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)	備考
◎自動式低圧エポキシ注入工法	0.2 以上～1.0 以下 (挙動のあるひび割れを除く)	◎200～300	・	
・手動式エポキシ樹脂注入工法 ・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上～1.0 以下 (挙動のあるひび割れを除く)	◎50～100 ◎100～200 ◎150～250	◎40・ ◎70・ ◎130・	
注入材料				

◎建築補修用注入エポキシ樹脂 (JIS A 6024 低粘度形または中粘度形)
検査 (コア抜取り) ◎行わない ・行う (抜取り後の補修方法：)
・ウカットシール材充填工法

充填材料	品質・規格等	備考
◎シーリング用材料	1 成分形または 2 成分形ポリウレタン系シーリング材	ポリマーセメントモルタルの充填 ・◎行わない ・行う
・可とう性エポキシ樹脂		

・4-3-3 欠損部改修工法 (4.1.4) (4.4.5) (4.4.7.8) (表 4.4.2)

・タイル部分張替え工法 (既存タイル張り撤去面)

接着剤の種類	品質・規格等
◎ポリマーセメントモルタル	
・タイル部分張替え工法用接	「建設省官民連帯共同研究報告書『有機系接着剤を利用した外壁タイル・石張りシステムの開発』(建設大臣官房技術調査室監修 平成 9 年 2 月)」における「外壁タイル・石張り用接着剤の品質基準 (案)」に基づく品質性能試験に適合するタイプ I であり監督職員の承諾するもの、または特記による。

・タイル張替え工法
伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
位置 ◎改修標準仕表 4.4.2 による ・図示
タイル張り下地等の均しモルタルの接着力試験 ・行う ・行わない
・セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り
タイル張りの工法
外装タイル ・密着張り ・改良圧着張り ・改良積上げ張り
外装ユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り
・有機系接着剤による陶磁器質タイル張り
シーリング材の種類
打継目地、ひび割れ誘発目地 ◎ポリウレタン系 ・
伸縮調整目地その他の目地 ◎変成シリコーン系 ・

・4-3-4 浮き部改修工法 (4.1.4) (4.4.5) (4.4.7～15) (表 4.3.5.6)

改修工法の種類 (モルタルを撤去しない場合)	フアードンクの本数 (本/m)	注入口の箇所数 (箇所/m)	充填量
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	◎16 ・	◎25 ・	— —
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	◎13 ・	◎20 ・	◎12 ◎20
・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	◎13 ・	◎20 ・	◎12 ◎20
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	◎9 ・	◎16 ・	— —
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	◎9 ・	◎16 ・	◎9 ◎16
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	◎9 ・	◎16 ・	◎9 ◎16
・注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法	・	・	— —
・タイル部分張り替え構法	—	—	— —
・タイル張り替え構法 アンカーピン	—	—	— —

材質 ◎ステンレス SUS304、呼び径 4mm の丸棒で全ネジ切り加工したもの
注入口付アンカーピン

材質 ◎ステンレス SUS304、呼び径外径 6mm 改修工法の種類

伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
位置 ◎改修標準仕表 4.4.2 による ・図示
タイル張り下地等の均しモルタルの接着力試験 ・行う ・行わない
・セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り
タイル張りの工法
外装タイル ・密着張り ・改良圧着張り ・改良積上げ張り
外装ユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り
・有機系接着剤による陶磁器質タイル張り
シーリング材の種類
打継目地、ひび割れ誘発目地 ◎ポリウレタン系 ・
伸縮調整目地その他の目地 ◎変成シリコーン系 ・

・4-3-5 目地改修工法 (3.7.2) (4.1.4) (4.4.16) (表 3.7.1)

・目地ひび割れ部改修工法
・伸縮目地改修工法
シーリング用材料 種類 ◎改修標準仕表 3.7.1 による

施工箇所	種類	形状寸法 (mm)	吸水率による区分			うわ薬		役物		色		再生材の注 [G]	耐凍害性		備考
			I 類	II 類	III 類	無釉	施釉	有	無	標準	特注		有	無	

役物：標準的な曲がり (小口、標準、二丁、屏風) の役物は一体成形とする
タイルの見本焼き ◎行わない ・行う
壁タイル張りの工法
外壁タイル ・密着張り ・マスク張り
タイルの試験張り ◎行わない ・行う

4－4 章 外壁改修工事 仕上塗材仕上げ外壁

〇4-4-1 既存塗膜等の除去及び下地処理 (4.5.2) (4.5.4) (表 4.5.4～7)

工法	処理範囲	下地面の補修
・サンダー工法	◎既存仕上面全体	●ひび割れ部改修工法 ・浮き部改修工法
●高圧水洗工法 加圧力・30Mpa ◎15MPa	◎既存仕上面全体	●欠損部改修工法
・塗膜はく離削工法	◎既存仕上面全体	
・水洗い工法	◎上記処理範囲以外の既存仕上面全体	
塗膜はく離剤	・	

〇4-4-2 下地調整塗材 (4.5.2) (4.5.4)

◎下地調整塗材
・ポリマーセメントモルタル

〇4-4-3 仕上塗材仕上げ (4.1.4) (4.5.2) (表 4.4.1.4) (4.5.1) (欄仕 15.6.2)

種類	呼び名	仕上の形状
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材 Si ・可とう形外装薄塗材 Si ・外装薄塗材 E ・可とう形外装薄塗材 E ・防水形外装薄塗材 E ・外装薄塗材 S	・砂壁状 ・着色骨材砂壁状 ・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状 ・ゆず肌状 ・さざ波状 ・凹凸状 ・砂壁状
●複層仕上塗材	・複層塗材 CE ・可とう形複層塗材 CE ・複層塗材 Si ・複層塗材 E ●複層塗材 RE ・防水形複層塗材 CE ・防水形複層塗材 E ・防水形複層塗材 RE ・防水形複層塗材 RS	●ゆず肌状 ・凸処理 ・凹凸模様 耐候性 ◎耐候形 3 種 上塗材 溶媒 ◎水系 ・溶剤系 樹脂 ◎アクリル系 外観 ◎つやあり ・つやなし ・メタリック 防水形の増塗材 ◎行う
・可とう形改修用仕上塗材	・可とう形改修塗材 E ・可とう形改修塗材 RE ・可とう形改修塗材 CE	耐候性 ◎耐候形 3 種 ・平たん状 ・さざ波状 ・ゆず肌状

防火材料の指定が必要な場合
◎建築基準法に基づく認定を受けた材料とする。

・4-4-4 マステック塗材塗り

種類 ・A 種 ・B 種

・4-4-5 外壁用塗膜防水材 (4.7.1～7)

各項目を参照する

5 章 建具改修工事

・5-1 改修工法の適用 (5.1.3)

建具の種類	かぶせ工法	撤去工法	備考
・アルミニウム製建具	・	・	
・樹脂製建具	—	・	
・鋼製建具	・内部 ・外部	・ ・	
・鋼製軽量建具	・	・	
・ステンレス製建具	・	・	
・木製建具			

・5-2 見本の製作等 (5.1.5)

特殊な建具の仮組 ・行う ◎行わない

・5-3 防犯建物部品 (5.1.6)

・適用する（・図示 ・ ）

・5-4 アルミニウム製建具 (5.2.2,4,5) (表 5.2.1,2)

外部に面する建具 ※複層ガラスの引違いの場合は 100 とする。

種類	枠見込 (mm)	施工箇所
・A 種	◎70	◎図示 ・
・B 種	・	◎図示 ・
・C 種	100	◎図示 ・
・防音ドアセット ・防音サッシ		遮音性の等級（ ） 断熱ドアセット ・断熱サッシ [G] 断熱性の等級（ ） 耐震ドアセット 面内変形追随性の等級（ ）
表面処理	種別◎BB-1 ・BB-2 (○ﾌﾞﾗｯｸ ・ﾌﾞﾗｯｸ ・ｽﾃﾝﾍﾞｰ)	
屋内建具		
表面処理	種別◎BB-1 ・BB-2 (○ﾌﾞﾗｯｸ ・ﾌﾞﾗｯｸ ・ｽﾃﾝﾍﾞｰ)	
結露水の処理方法	◎図示	・
水切り板、ぜん板	◎図示	・
公共住宅のアルミサッシの品質及び性能		「品質・性能基準」による ・

・5-5 網戸の網 (5.2.3)

種類	材質	線径	網目
・防虫網	◎合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス (SUS316) 製	◎0. 25mm 以上 ・	◎16～18 メッシュ
・防鳥網	ステンレス (SUS304) 線材	1. 5mm	網目寸法 15mm

・5-6 樹脂製建具 (5.2.5) (5.3.2～5)

種類	枠見込 (mm)	施工箇所
・A 種	◎70	◎図示 ・
・B 種	・	◎図示 ・
・C 種	100	◎図示 ・
・防音ドアセット ・防音サッシ		遮音性の等級（ ） 断熱ドアセット ・断熱サッシ [G] 断熱性の等級（ ） 耐震ドアセット 面内変形追随性の等級（ ）
表面色	◎標準色 ・特注色	
水切り板、ぜん板	◎図示 ・	
ガラス	◎複層ガラス ・	

・5-7 鋼製建具 (5.2.2) (5.4.2～4) (表 5.4.2)

簡易気密扉の簡易気密型ドアセット ・適用する ・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4 ・S-5 ・S-6
・防音ドアセット・防音サッシ 遮音性の等級（ ）
・断熱ドアセット・断熱サッシ [G] 断熱性の等級（ ）
・耐震ドアセット 面内変形追随性の等級（ ）

鋼板類	材料	厚さ
・JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板)		・標準仕表 5.4.2 による
・JIS G 3317 (溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板)		・
公共住宅の玄関ドアの品質及び性能		
・「品質・性能基準」による ・		
公共住宅のバイパスシャフトドアの品質及び性能		
・「品質・性能基準」による ・		

・5-8 鋼製軽量建具 (5.2.2) (5.5.2～4)

簡易気密扉の簡易気密型ドアセット ・適用する (◎A-3 ・) ・適用しない
・防音ドアセット・防音サッシ 遮音性の等級（ ）
・断熱ドアセット・断熱サッシ [G] 断熱性の等級（ ）
・耐震ドアセット 面内変形追随性の等級（ ）

材料 鋼板類 ◎亜鉛めっき鋼板 ・ビニル被膜鋼板 ・カラー鋼板 ・ステンレス鋼板
鋼板類の厚さ (mm) ◎改修標準仕 5.5.4 による
召合せ、縦小包み板の材質 ◎鋼板 ・
品質規格 ◎製造所標準仕様による
製造所 評価名簿による
公共住宅のクローゼットドアの品質及び性能
・「品質・性能基準」による ・

・5-9 ステンレス製建具 (5.2.2) (5.4.2) (5.6.2～5)

簡易気密扉の簡易気密型ドアセット性能値 ・適用する ・適用しない
・防音ドアセット ・防音サッシ 遮音性の等級（ ）
・断熱ドアセット ・断熱サッシ [G] 断熱性の等級（ ）
・耐震ドアセット 面内変形追随性の等級（ ）

ステンレス建具の鋼材の種類	鋼材の種類
施工箇所	
屋外	◎SUS304, SUS430J1L, SUS443J1 ・
屋内	◎SUS304, SUS430J1L, SUS443J1 ・
表面の仕上げ	◎H L 仕上げ ・鏡面仕上げ 鋼板の曲げ加工 ◎普通曲げ ・角出し曲げ

・5-10 木製建具 (5.7.2～4)

合板の種類	規格等	備考
・普通合板 [G]	表面の樹種 生地、透明塗料塗り (◎ラワン合板程度 ・) 不透明塗料塗り (◎しな合板程度 ・) 板面の品質 ()	
・天然化粧化粧合板 [G]	樹種名 ()	
・特殊加工化粧合板 [G]	化粧加工の方法 (・オーバーレイ ・プリント ・塗装) 表面性能 () タイプ 防虫処理 (・行う ・行わない) 接着の程度 (・1 類・2 類) 表面板の厚さ ◎表 5.7.6 による ・ 建具材の含水率 ◎A 種 ・ ・かまち戸 かまち樹種 () 鏡板樹種 () ・ふすま 張りの種別 (・I 型 ・II 型) 上張り (押入等の裏側以外) ・鳥の子 ・新鳥の子またはビニル紙程度 建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ◎規制対象外 ・ 公共住宅の内装ドアの品質及び性能 ・「品質・性能基準」による 公共住宅の量産ふすまの品質及び性能 ・「品質・性能基準」による	

5-11 建具用金物 (5.8.2.3) (表 5.7.1～3)	建具金物の種類	品質・規格
種類		評価名簿による
・本締まり付きモノロック		
◎シリンドラ箱錠		
・シリンドラ本締まり錠		
・ドアクローザ		
・ヒンジクローザ		
・フロアヒンジ		
・ハンドル		◎レバーハンドル ・

・5-12 錠 (5.8.4)

マスターキー ◎製作する ・製作しない
その他の鍵 ・各室 3 本 1 組 ・
引渡し ・錠箱に収納する

・5-13 自動ドア開閉装置 (5.9.2.3) (表 5.9.1～5)

引き戸用駆動装置	自動ドア	性能	引き戸用検出装置の種類	凍結防止	防錆
	・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSL D-1 ・DSL D-2	◎耐電圧、 温度上昇、 耐久性 (サイクル) は 改修標準仕表 5.9.1 による ・	・マットスイッチ ・光線 (反射) スイッチ ・熱線スイッチ ・音波スイッチ ・光電スイッチ ・電波スイッチ ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・ペダルスイッチ ・多機能トイレスイッチ	・行う (適用箇所は、建具表による) ・行わない	・適用する ・適用しない

多機能トイレ出入り口引き戸用駆動装置
開閉方法 ◎片開き ・
耐電圧、温度上昇、耐久性 (サイクル)、防錆、電源
◎改修標準仕表 5.9.2 による
・耐電圧 () ・温度上昇 ()
・耐久性 (サイクル) () ・防錆・電源 ()
()

引き戸用検出装置
放射無線周波数電磁界耐性、耐電圧、防錆、防滴、電源
◎改修標準仕表 5.9.3 による
・放射無線周波数電磁界耐性 () ・耐電圧 ()
・防錆 () ・防滴 () ・電源 ()
戸の開閉方式
引き戸検出装置の種類 (改修標準仕表 5.9.4)
凍結防止装置
・図示
・適用する (図示) ・適用しない

・5-14 自閉式上吊り引戸装置 (5.10.3) (表 5.10.1)

品質規格 ◎改修標準仕表 5.10.1 ・製造所標準仕様による
製造所 ◎評価名簿による

・5-15 重量シャッター (5.11.2.3) (表 5.11.1)

シャッターの種類	耐風圧強度
・管理用シャッター	耐風圧強度 () N/m ²
・外壁用防火シャッター	耐風圧強度 () N/m ²
・屋内用防火シャッター	
・屋内用防煙シャッター	
開閉方式による種類	◎上部電動式 (手動併用) ・上部手動式
危害防止機構	◎障害物感知装置 (自動閉鎖型)
管理用シャッターのシャッターケース	◎設ける ・設けない
鋼板の種類	・JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板) ・JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板)
めっきの付着量	◎Z12 または F12 ・

・5-16 軽量シャッター (5.12.2.3) (表 5.12.1)

開閉方式による種類 ◎手動式 ・上部電動式 (手動併用)
耐風圧強度 () N/m²
スラットの材質
・JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板) めっき付着量 (◎Z06 または F06 ・)
・JIS G 3322 (塗装溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板)
めっき付着量 (◎A290 ・)
スラットの形状 ◎インターロッキング形 ・オーバーラッピング形

・5-17 オーバーヘッドドア (5.13.2.3) (表 5.13.1,2)

セクション材料による区分	耐風圧区分 (Pa)	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材質
◎スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・125 (1250Pa) ・100 (1000Pa) ・75 (750Pa) ・50 (500Pa)	◎バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイルフト形 ・バーチカル形	◎溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

・5-18 ガラス (5.14.2～4) (3.7.3)

◎建具表による ・ガラスブロック			
寸法 (mm)	色調	パターン	防火認定
	◎クリア ・熱線反射 ・乳白 ・カラー ()		

ガラス留め材及び溝の大きさ	建具の種類	材質	ガラス溝の大きさ (mm)
アルミニウム製	◎シーリング材 ・ガスケット (Fix 部はシーリング材)		◎標準仕 16.14.3 (製造所の仕様) による ・図示
鋼製・鋼製軽量	◎シーリング材		
ステンレス製	◎シーリング材		
ただし、防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能を有するものとする。 ガラス用フィルム			
名称	種類	張り面	性能値
◎ガラス用飛散フィルム	第 2 種	◎内張り ・外張り	飛散防止率 D1
品質 JIS A 5759 による。			

工事名称	前原団地 1 号棟屋根・外壁改修工事		
図面名称／縮尺	特記仕様書（その 3）		図面番号
設計年月日	2025 年 10 月		A－03
設計者	一級建築士 大臣登録第 200584 号 大 高 智		
発注者	那須町ふるさと定住課		

前原団地 1 号棟屋根・外壁改修工事 特記仕様書

6 章 内装改修工事

・6-1 改修範囲 (6.1.3)

既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井、壁及び床の改修範囲
◎壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・ 図示の範囲
天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲
◎壁面より両側 600mm 程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・ 図示の範囲
天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修
◎既存のまま ・ 図示の範囲

・6-2 既存床の撤去及び下地補修 (6.2.2)

ビニル床シート等の除去
◎仕上げ材のみ（接着剤とも） ・ 下地モルタルとも（◎図示の範囲 ・ 除去範囲の全て）
合成樹脂塗り床材の除去工法 ・ 機械的除去工法 ・ 目荒工法
改修後の床の清掃範囲 ◎改修箇所の室内 ・

・6-3 既存壁の撤去及び下地補修 (6.3.2) (4.3.10)

間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修
◎図示 ・ モルタル塗り（塗り厚 25mm を超える場合の補強◎行う ・ 行わない）

・6-4 木下地 (6.5.2) (表 6.5.1.2)

木材の品質 ・ 市販品
樹種 ◎改修仕様表 6.5.6～9 による ・ 代用樹種を適用する箇所（ ）
保存処理木材を適用する箇所（ ）

・6-5 造作用集成材 [G] (6.5.2)

ホルムアルデヒド放散量 ◎規制対象外 ・ 第三種
「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所 樹種 寸法 (mm) 見付け材面の等級 間伐材等の適用

◎ 1 等 ・ 2 等

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所 化粧薄板の樹種 芯材の樹種 寸法 (mm) 化粧薄板の厚さ (mm) 見付け材面の等級 間伐材等の適用

◎ 1 等 ・ 2 等

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所 樹種 寸法 (mm) 見付け材面の品質 含水率 間伐材等の適用

◎ A 種
・ B 種

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所 化粧薄板の樹種 芯材の樹種 寸法 (mm) 化粧薄板の厚さ (mm) 見付け材面の品質 含水率 間伐材等の適用

◎ A 種
・ B 種

・6-6 造作用単板積層材 [G] (6.5.2)

ホルムアルデヒド放散量 ◎規制対象外 ・ 第三種
・ JAS 0701（単板積層材）による造作用単板積層材

施工箇所 厚さ (mm) 防虫処理 表面の化粧加工 間伐材等の適用

・適用する ・有（加工）
・適用しない ・無（等級）

・ JAS 0701（単板積層材）以外の造作用単板積層材

施工箇所 厚さ (mm) 防虫処理 表面の化粧加工 含水率 間伐材等の適用

・適用する ・有（加工）
・適用しない ・無（等級） ◎14%以下 ・

・ JAS 3079（直交集成板）による C L T（直交集成板）[G]

施工箇所 品名 曲げ性能（強度等級） 種別 接着性能（使用環境） 樹種 寸法 (mm) 間伐材等の適用

・6-7 合板等 (6.5.8) (表 6.5.8)

ホルムアルデヒド放散量 ◎規制対象外 ・ 第三種
「合板の日本農林規格」による普通合板 [G]

施工箇所 厚さ (mm) 表板の樹種名 接着の程度 板面の品質 防虫処理 間伐材等の適用

◎ 5.5 ・
◎ 1 類 ・ 2 類
広葉樹
◎ 2 等以上
・ 1 等以上
針葉樹
◎ C-D 以上 ・
・適用する
・適用しない

・「合板の日本農林規格」による構造用合板 [G]

施工箇所 厚さ (mm) 等級 表板の樹種名 接着の程度 板面の品質 有効断面係数比 防虫処理 強度等級 間伐材等の適用

◎ 1 類 ・ 特類

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板 [G]

施工箇所 厚さ (mm) 単板の樹種名 接着の程度 防虫処理の適用 間伐材等の適用

・ 1 類 ・ 特類

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板 [G]

施工箇所 化粧板に使用する単板の樹種名 厚さ (mm) 接着の程度 防虫処理の適用 間伐材等の適用

・ 1 類 ・ 2 類
・適用する（ ）

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板 [G]

施工箇所 厚さ (mm) 接着の程度 表面性能 化粧加工の方法 防虫処理の適用 間伐材等の適用

・パーティクルボード [G]

施工箇所 表裏面の状態による区分 曲げ強さによる区分 耐水性による区分 難燃性による区分 厚さ (mm)

◎ 13 タイプ ◎ P または M ◎ 15

・ 構造用パネル						
施工箇所		厚さ (mm)		等級		
				・ 1 級 ・ 2 級 ・ 3 級 ・ 4 級		
・ MDF [G]						
施工箇所	厚さ (mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分	間伐材等の適用
・ 6-8 防腐・防蟻処理 (6.5.5)						
・ 防腐、防蟻処理を省略できる樹種による製材 適用部位：()						
・ 薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理						
適用部材				保存処理性能区分		
				・ K 2 ・ K 3 ・ K 4		
				・ K 2 ・ K 3 ・ K 4		
・ 薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理						
適用部材		処理の方法		保存処理性能区分		
・ 薬剤の接着材への混入による防腐・防蟻処理 適用部位：()						
・ 6-9 接着剤 (6.5.3)						
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ◎規制対象外 ・ 第三種						
・ 6-10 軽量鉄骨天井下地 (6.6.2～4) (表 6.6.1)						
野縁等の種類		屋外形 (◎25 形 ・ 19 形)		屋内形 (◎19 形 ・ 25 形)		
・ 屋外の軒天井、ピロティ天井等の工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の (・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 野縁、野縁受、つりボルト及びインサート及び周辺部の間隔 ・ 図示 ・ 既存の埋込インサート ・ 使用する ・ 使用しない あと施工アンカー施工後の確認試験 ◎行う ・ 行わない 補強方法 つりボルトの間隔 (900mm 超) ◎図示 ・ 天井のふところ (1.5m 以上 3.0m 以下) ◎改修仕様 6.6.4 (8) (7) (4) による ・ 図示 天井のふところ (3.0m 超) ◎図示 ・ 特定天井 特定天井及び特定天井の構造耐力上安全な構造方法を定める件 (平成 25 年国土交通省告示第 771 号) に基づく工法 ◎適用する ・ 適用しない						
・ 6-11 軽量鉄骨壁下地 (6.7.3) (表 6.7.1)						
高さ 2.7m 以下	高さ 4.0m 以下	高さ 4.0m 超、 4.5m 以下	高さ 4.5m 超、 5.0m 以下	5.0m 超		
◎50 形	・	◎90 形 ・	◎100 形 ・	・ 図示		
・ 6-12 ビニル床シート [G] (6.8.2.3)						
種別	種類の記号			色柄	厚さ (mm)	
・ 発泡層のないもの	◎FS (複層ビニル床シート) ・			◎無地 ・ マーブル柄	◎2.0 ・	
・ 発泡層のあるもの	・			◎柄物 ・ 無地		
目地処理する場合の工法 ◎熱溶接工法 ・ 突付け (施工箇所)						
・ 6-13 ビニル床タイル [G] (6.8.2)						
種類の記号		色柄	寸法 (mm)	厚さ (mm)	備考	
◎K T (コンポジションビニル床タイル) ・ F T (複層ビニル床タイル) ・ F O A (置敷きビニル床タイル)		◎無地 ・ 柄物	・ 300×300 ・ 450×450 ・ 500×500	◎2.0		
・ 6-14 特殊機能床 (6.8.2)						
シート種別		厚さ、寸法、形状	性能	種類		
・ 帯電防止床シート		(mm)				
・ 帯電防止床タイル		× (mm)				
・ 視覚障害者用床タイル		(mm)				
・ 耐動荷重性床シート		(mm)				
・ 防滑性床シート		(mm)				
・ 防滑性床タイル		× (mm)				
・ 6-15 ビニル幅木 (6.8.2)						
材質		・ 軟質 ・ 硬質				
高さ (mm)		◎60 ・ 75 ・ 100				
厚さ (mm)		◎1.5 以上 ・				
・ 6-16 ゴム床タイル (6.8.2)						
種類		・ 単層 ・ 複層				
色柄		()				
厚さ (mm)		・ 3.0 ・ 4.5 ・ 6.0 ・ 9.0				
寸法 (mm)		()				
・ 6-17 カーペット敷き [G] (6.9.3) (表 6.9.2)						
・ 織じゅうたん						
種別	バイル形状		色柄	帯電性	糸の種類	工法
・ A 類	・ カットバイル		◎無地	◎適用する ・ 適用しない	・	◎ヒートボンド工法
・ B 類	・ ループバイル		・ 柄物			
・ C 類	・ カット、ループ併用					
・ タフテッドカーペット						
バイル形状		バイル長 (mm)	工法	帯電性	備考	
・ カットバイル		◎5～7	・ 全面接着工法	・ 適用する () ・ 適用しない		
・ ループバイル		◎4～6	・ グリッパ工法			
・ カット、ループ併用		・				
・ タイルカーペット						
バイル形状		種別	寸法 (mm)	総厚さ (mm)	備考	
◎ループバイル		◎第一種	◎500×500	◎6.5	平場 ◎市松敷き ・ 模様流し	
・ カットバイル		◎第二種	・	・	階段 ◎模様流し ・ 市松敷き	

前原団地 1 号棟屋根・外壁改修工事 特記仕様書

・6-30 移動間仕切（標仕 20.2.4）				
遮音性能による区分	厚さ（mm）	表面材	表面仕上げ	操作方法
・一般タイプ		・銅板	・焼付塗装 ・壁紙張り	・手動式・電動式 ・部分電動式
・遮音タイプ （36db 以上）		・銅板	・焼付塗装 ・壁紙張り	・手動式・電動式 ・部分電動式
表面仕上げの壁紙張りの品質は標仕 19 章内装工事による 製造所評価名簿による				

・6-31 トイレブース（標仕 20.2.5）				
表面仕上げ材 ◎メラミン樹脂系化粧板（標準色アルミ製コーナーエッジ付き） ・ポリエステル樹脂系化粧板 足形状 ◎幅木型 ・足金物型 製造所監督職員の承諾する製造所による パネル材のホルムアルデヒド放射量 ◎規制対象外				

・6-32 階段滑り止め（標仕 20.2.7）				
材種 ◎ステンレス（SUS304） 形状 ◎ビニルタイヤ入り両端フラットエンド ◎有（◎ビニル製 ・ステンレス製） ・無 幅（mm） ◎約 35 ・ 取付工法 ◎接着工法 ・埋込み工法				

O6-33 階段手すり		施工箇所
種別		
◎集成材クリアラッカー仕上げ（市販品径：約 40mm）		
●樹脂製（幅：約 34φmm）		階段室

・6-34 黒板及びホワイトボード [G]（標仕 20.2.9）				
種類		寸法	色彩	備考
・黒板	◎焼付け		◎緑 ・黒	◎平面 ・曲面 ・スクリーン付引分
			◎緑 ・黒	◎平面 ・曲面 ・スクリーン付引分
・ホワイト ボード	◎ほうろう		◎白	◎平面 ・曲面 ・スクリーン付引分
			◎白	◎平面 ・曲面 ・スクリーン付引分

・6-35 鏡（標仕 20.2.10）	
厚さ ◎5mm ・	

・6-36 表示（標仕 20.2.11）			
区分	材質	取付位置	
・衝突防止表示	・ステンレス製 ・図示	・図示 ・	
・室名札	・アクリル板 ・	・図示 ・	
・	・ ・	・	
誘導標識、非常用進入口表示等は市販品とする。 表示標識は図示による。ただし、案内用図記号は JIS Z 8210 による。 製造所：監督職員の承諾する製造所			

・6-37 ブラインド（2.3.1）(5.1.6）（標仕 20.2.14）					
・既存再利用する（養生方法： ） ・新設する					
形式	操作方法	種類	スラットの材質	スラット幅 （mm）	ボックス、レール の材種
◎横型	・手動	◎ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式	◎アルミニウム合 金製 [G] ・	◎25 ・35	・鋼製 ・
	・電動	―			
・縦型	・手動	・2 本操作コード式 ・1 本操作コード式	・アルミスラット ・クロススラット ・	・80 ・100	アルミニウム 合金製
	・電動	―			

・6-38 ロールスクリーン [G]（標仕 20.2.15）				
防火性能	◎有 ・無			
操作方式	・スプリング式 ・コード式 ・電動式			
スクリーンの材質	・ポリエステル ・綿			

・6-39 カーテン（標仕 20.2.16）									
・既存再利用する（養生方法： ） ・新設する									
施工箇所	形式	開閉装置			ひだの種類		品質等		
	シングル	ダブル	片引	引分	電動	ひも	手引		

・6-40 カーテンレール（標仕 20.2.16）				
・既存再利用する（養生方法： ） ・新設する				
材種	・ステンレス製 ・アルミニウム製			
形式	・片開き ・引き分け（暗幕用は 300mm 以上の召合わせの重掛けとする） ・シングル ・ダブル			
断面形状	◎C 型 ・D 型 ・角型			

・6-41 ブラインドボックス及びカーテンボックス（標仕 20.2.16）				
・既存再利用する（養生方法： ） ・新設する				
・市販品（アルミニウム製 押出し型材） 溝幅×深さ（mm） ・90×150 ◎120×80 ・120×150 ・150×80 色彩 ◎B-1 ・B-2（◎ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー） ・図示				

・6-42 天井点検口	
材質	アルミニウム製（◎額縁タイプ ・目地タイプ）
製造所：	評価名簿による

・6-43 床点検口	
材質	アルミニウム製（受け枠 ◎アルミ製 ・ステンレス製）
製造所：	評価名簿による
・6-44 くつきマット	
市販品	材質 ・塩化ビニル製（コイル状ステンレス製受枠） ・硬質アルミニウム製（受枠とも） ・ビニル製（ステンレス製受枠） ・ステンレス製（受枠とも）

・6-45 浴室ユニット（公仕 20.2.15）				
公共住宅の品質及び性能（・「品質・性能基準」による ・ ） 種類、形状、寸法（内法）、材質（ ）				

・6-46 キッチンキャビネット（公仕 20.2.16）				
公共住宅の品質及び性能（・「品質・性能基準」による ・ ） 種類 ◎キッチン（◎Ⅰ型 ・Ⅱ型） ・シンク 流し台、調理台、シンク、吊り戸棚等の形状、寸法 ◎設計図による ・ カウンタートップ及びシンクの材質 ◎ステンレス ・ 付属部品 ◎水切り棚 ・				

・6-47 郵便受箱（公仕 20.2.17）				
公共住宅の品質及び性能（・「品質・性能基準」による ・ ） 形状 ・縦型 ◎横型 寸法 （ × ） 個数（ ）個 材質 ◎ステンレス ・				

・6-48 手すりユニット（公仕 20.2.18）					
公共住宅の品質及び性能（・「品質・性能基準」による ・ ）					
名称	種類	材質	形状	寸法（支柱間隔、高さ等）	支持方法
墜落防止手すり	・廊下用	・7×3 ・スチール ・ステンレス	・手すり子 ・目隠しパネル	◎設計図による ・	・床支持 ・壁支持 ・方立て支持
	・バルコニー用	・7×3 ・スチール ・ステンレス	・手すり子 ・目隠しパネル	◎設計図による ・	・床支持 ・壁支持 ・方立て支持
	・窓用	・7×3 ・スチール ・ステンレス	・手すり子 ・目隠しパネル	◎設計図による ・	・床支持

・6-49 補助手すり（公仕 20.2.19）				
公共住宅の品質及び性能（・「品質・性能基準」による ・ ）				
名称	材質	形状	寸法	設置場所
◎廊下階段手すり	◎合成樹脂被覆7×3手すり			
◎補助手すり	・樹脂被覆ステンレス手すり ・集成材クリアラッカー塗り			

7 章 塗装工事

O7-1 材料（7.1.3）	
屋内の壁・天井仕上げ材は防火材料とする。 建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒドの放散量 ◎規制対象外 ・第三種	

O7-2 下地調整（7.2.2～7）（表 7.2.1～7）	
下地面等	種別
木部	・ R A 種 ◎ R B 種 ・ R C 種
鉄鋼面	・ R A 種 ◎ R B 種 ・ R C 種
亜鉛めっき鋼面	・ R A 種 ◎ R B 種
亜鉛めっき鋼面（鋼製建具）	◎ R A 種 ・ R B 種
モルタル面及びせっこうプラスター面	・ R A 種 ◎ R B 種 ・ R C 種
コンクリート面及びALCパネル面	・ R A 種 ◎ R B 種 ・ R C 種
せっこうボード面及びその他ボード面	・ R A 種 ◎ R B 種 ・ R C 種
既存モルタル下地面等のひび割れ部の補修 ◎行わない ・行う（補修範囲及び補修方法は図示による。）	

・7-3 床地ごしらえ（7.3.2～7）（表 7.3.1～7）		
下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	◎ A 種 ・ B 種
	透明塗料塗りの場合	・ A 種 ◎ B 種
鉄鋼面	DP 以外	・ A 種 ・ B 種 ◎ C 種
	DP	・ A 種 ◎ B 種 ・ C 種
亜鉛めっき鋼面		・ A 種 ・ B 種
モルタル面及びせっこうプラスター面		・ A 種 ◎ B 種
コンクリート面（DP 以外）及びALCパネル面		・ A 種 ◎ B 種
押出成形セメント板面及びコンクリート面（DP）		・ A 種 ・ B 種
コンクリート面（DP のみ）		・ A 種 ◎ B 種
せっこうボード面及び その他ボード面	目地：継目処理工法	◎ A 種 ・ B 種
	目地：継目処理工法以外	・ A 種 ◎ B 種

O7-4 錆止め塗料塗り（7.4.2.3）（表 7.4.1～6）			
下地面等		塗料	工程
鉄鋼面	SOP	塗替え	◎ A 種 ・
	仕上塗料なし	新規見え掛り	◎ A 種 ・
		新規見え隠れ	◎ A 種 ・
	DP	塗替え	改修標仕 7.4.2(1) (イ) (b) による
		新規	改修標仕 7.4.2(1) (イ) (a) による
	EP-G	塗替え	◎ B 種 ・
		新規見え掛り	◎ B 種 ・
		新規見え隠れ	◎ B 種 ・
	SOP	塗替え	◎ A 種 ・
	仕上塗料なし	新規鋼製建具等	◎ A 種 ・
		その他	◎ B 種 ・
	DP	塗替え	◎ B 種 ・
		新規	◎ B 種 ・
	EP-G	塗替え	◎ C 種 ・
		新規鋼製建具等	◎ C 種 ・
		その他	◎ C 種 ・

O7-5 各種塗料塗り（7.5.1～7.13.2）（表 7.5.1～7.13.1）			
塗装	塗装面	工程	
		塗替え	新規
・合成樹脂調合ベイント塗り（SOP） 塗料の種別 ◎1 種 ・2 種	木部 屋外	◎ B 種	◎ A 種
	木部 屋内	◎ B 種	◎ B 種
	鉄鋼面	◎ B 種	・ A 種 ◎ B 種
	亜鉛めっき鋼面	◎ B 種	◎ B 種
	鋼製建具	◎ A 種	◎ B 種
・アクリル樹脂系非水分散 形塗料塗り（NAD）	屋内のコンクリート面 ・モルタル面	◎ B 種	◎ B 種
●耐候性塗料塗り（DP）	鉄鋼面 上塗り ●1 級（フッ素樹脂塗料） ・2 級（アクリルシリコン樹脂塗料） ・3 級（ポリウレタン樹脂塗料）	◎ B 種	◎ A 種
	亜鉛めっき鋼面 ・1 級（フッ素樹脂塗料） ・2 級（アクリルシリコン樹脂塗料） ・3 級（ポリウレタン樹脂塗料）	－	－
	コンクリート面	・A-1 種 ・A-2 種 ・B-1 種 ・B-2 種 ・C-1 種 ・C-2 種	・A-1 ・B-1 ・C-1
	押出成形セメント板面	・A-1 種 ・A-2 種 ・B-1 種 ・B-2 種 ・C-1 種 ・C-2 種	・A-1 ・B-1 ・C-1
●つや有合成樹脂エマルジョンベイント塗り（EP-G）	屋内木部 屋内鉄鋼面 屋内亜鉛めっき鋼面 コンクリート面 モルタル面 せっこうボード面 木部等	◎ B 種 ・ ◎ B 種 ・ ◎ A 種 ・ ◎ B 種 ・ ◎ B 種 ・ ◎ B 種 ・ ◎ B 種 ・	◎ A 種 ・ ・ A 種 ・ B 種 ・ A 種 ・ B 種 ・ A 種 ・ B 種 ・ A 種 ・ B 種 ・ A 種 ・ B 種 ・ A 種 ・ B 種
・合成樹脂エマルジョンベイント塗り（EP）	塗装面 コンクリート面 モルタル面 せっこうボード面 木部等	◎ B 種 ・ ◎ B 種 ・ ◎ B 種 ・ ◎ B 種 ・ ◎ B 種 ・	・ A 種 ・ B 種 ・ A 種 ・ B 種 ・ A 種 ・ B 種 ・ A 種 ・ B 種 ・ A 種 ・ B 種
・合成樹脂エマルション模様塗料塗り（EP-T）	屋内コンクリート面 モルタル面 せっこうプラスター面 せっこうボード面 木部等	・ A 種 ◎ B 種 ・ C 種	・ A 種 ・ B 種
・ウレタン樹脂ワニス塗り（UC）	木部	・ A 種 ◎ B 種	・ A 種 ◎ B 種
・ラッカーエナメル塗り（LE）		・ A 種 ◎ B 種	・ A 種 ◎ B 種
・クリヤラッカー塗り（CL）		・ A 種 ◎ B 種	・ A 種 ◎ B 種
・ステイン塗り	木部	・ビゲメントステイン塗り ・オイルステイン塗り（OS）	
・木材保護塗料塗り（WP）	木部	・ A 種 ◎ B 種	・ A 種 ◎ B 種
・水性ウレタン樹脂塗料塗り	木部	2 波 形 4 回 塗 り 1 回 の 塗 付 量 0.06kg/m3 ホルムアルデヒド放散量 F☆☆☆☆	
合成樹脂調合ベイント塗りの塗料の種別 ◎1 種			

8－1 章 耐震改修工事及び耐震改修範囲以外の躯体改修工事

・8-1-1 鉄筋の種類等（8.2.1）（表 8.2.1）			
規格	種類の記号	使用箇所	呼び名（mm）
鉄筋（異形鉄筋）	・SD295A		◎D16 以下 ・
	・SD345 ・		◎D19 以上 ・

・8-1-2 溶接金網（8.2.2）				
形状等				
種類	種類の記号	網目の形状、寸法	鉄線の径（mm）	使用部位
・溶接金網		◎100×100 ・	◎6.0 ・	
・鉄筋格子				

・8-1-3 鉄筋の継手（8.3.4）（表 8.3.3）	
柱及び梁の主筋、耐力壁の鉄筋 ・重ね継手（L＝ ） ・ガス圧継手 ・機械式継手 ・溶接継手	

・8-1-4 鉄筋及び溶接金網のかぶり厚さ（8.3.5）（表 8.3.6）	
鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、目地底から算定する ・耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下記による	
施工箇所	改修標仕表 8.3.6 の値に加える長さ
・柱、梁、壁及び庇などの外気に接する放射し面 柱及び梁の主筋に D29 以上の鉄筋の使用 ・無 ・有（適用箇所： ） 主筋のかぶり厚さ・最小かぶり厚さ（ ）mm	◎10mm ・

・8-1-5 帯筋（8.3.4）	
帯筋の組立の形 各部配筋参考図 1.1 による ・H 形 ・W－Ⅰ 形 ・W－Ⅲ 形	

・8-1-6 圧接完了後の圧接部の試験（8.3.8）（標仕 5.4.10）			
・耐震改修	◎外観試験（全数）	◎超音波探傷試験（全数）	
・耐震改修以外	◎外観試験（全数）	◎超音波探傷試験 ・引張試験（ ）	

・8-1-7 コンクリートの種類及び強度（8.1.3.4）（表 8.1.1）				
レディーミクストコンクリートの種別 ◎Ⅰ 類 ・Ⅱ 類 普通コンクリートの設計基準強度				
設計基準強度 Fc（N/mm2）	気乾単位容積質量（t/m3）	スランプ	適用箇所	施工時期
◎21	2.3 程度	◎18 ・15 または 18		
・				

・8-1-8 普通コンクリートの材料（8.2.5）（8.6.4）			
セメントの種類 ◎普通ポルトランドセメントまたは混合セメントの A 種 ・高炉セメント B 種 [G] 普通ポルトランドセメントの品質は JIS R 5210 に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。			
水和熱	7d	352J/g 以下	
	28d	402J/g 以下	

混和材料	
混和材料の種類 ◎混和剤（JIS A 6204 による AE 剤、AE 減水剤または高性能 AE 減水剤とし、化学混和剤の塩化物イオン量による区分はⅠ 類とする。 ・混和材（JIS A 6201 によるフライアッシュのⅠ 種またはⅡ 種、JIS A 6206 に適合する高炉スラグ微粉末または JIS A 6202 に適合する膨張剤 使用骨材のアルカリシリカ反応性による区分 ・ A ・ B（コンクリートの中のアルカリ総量 R t＝3.0kg/m3）	

・8-1-9 レディーミクストコンクリート工場の選定	
レディーミクストコンクリート工場の選定においては、改修標仕 8.5.1（コンクリート製造工場の選定）によること、かつ、配合設計及び品質管理等を適切に実施できる工場（全国品質管理監査会議の策定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場）から選定することを基本とする。ただし、上記工場が工事現場近くに見当たらない場合は、監督員との協議により選定することとする。	

・8-1-10 モルタル及びグラウト材（8.2.12）	
柱底等の均しモルタル ◎無収縮モルタル ・標仕表 7.10.2 による B 種 グラウト材 ◎無収縮グラウト材 無収縮モルタル及び無収縮グラウト材は、評価名簿による	

・8-1-11 打放し面の打増し			
打増し厚さ（外部に面する部分）	◎20mm ・		
打増し厚さ（内部に面する部分）	◎10mm ・20mm		
打増し範囲	◎意匠図による ・		

・8-1-12 無筋コンクリート（8.11.1～3）			
種類	設計基準強度 Fc（N/mm2）	スランプ（cm）	粗骨材の最大寸法
◎普通コンクリート	◎18	・15 ・18	◎25mm

・8-1-13 鉄骨の製作工場（8.1.5）	
製作工場の加工能力 ・監督職員の承諾する製作工場 ・建築基準法第 77 条の 45 第 1 項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた（株）日本鉄骨評価センターまたは（株）全国鉄骨評価機構（（旧）（社）全国鉄鋼工業協会）の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「（ ）グレード以上」として国土交通大臣から認定を受けた工場	

・8-1-14 入熱、パス間温度の溶接条件	
適用箇所	◎柱、

前原団地 1 号棟屋根・外壁改修工事 特記仕様書

- ・8-1-20 溶接部の試験 (8.15.11,12)

完全溶け込み溶接の超音波探傷試験 ◎行う
現場隅肉溶接部の外観検査 ◎行う (検査箇所 構造耐力上主要な部分である継手・仕口)
- ・8-1-21 錆止め塗料塗り (8.17.13)

耐火被覆材の接着する面の塗装 ◎行わない ・行う (・JIS K 5622 ・)

・8-1-22 耐火被覆 (8.18.2～7)	
種別	所要性能及び適用構造区分
・ラス張りモルタル塗り	
	・乾式吹付けロックウール
	・半乾式吹付けロックウール
	・湿式ロックウール
	・
・耐火板張り	
・耐火材巻き付け	

- ・8-1-23 既存コンクリートの目荒し (8.21.3) (8.22.3)

適用範囲
◎既存コンクリートとの打ち継ぎ面
◎既存コンクリートとモルタルまたはグラウト材の充填部の接合面
・
既存コンクリートの目荒しの程度
◎既存柱・梁面 打ち継ぎ面の 15～30%程度
◎既存壁 打ち継ぎ面の 15～30%程度
既存コンクリートの目荒しの範囲
◎平均深さ 2～5mm (最大深さ 7mm) 程度の凹面を、全体にわたってつける

- ・8-1-24 あと施工アンカーの材料 (8.2.4)

あと施工アンカーの材料
・金属系アンカー (耐震補強用)
◎接着系アンカー
アンカーの種類 ◎カプセル型回転 ・打撃式
接着剤の品質 ◎有機系 ・無機系
アンカー筋の種類 ◎鉄筋コンクリート用異形棒鋼 ・全ねじボルト

- ・8-1-25 あと施工アンカーの穿孔 (8.12.4)

穿孔前の埋め込み配管等の探査
範囲 ◎あと施工アンカー施工部分すべて ・図示
方法 ◎探査機により精査し、配管等の位置の墨出しを行う ・はつり出しによる
既存コンクリートの不良箇所の確認
アンカー施工部位の既存コンクリートは目荒らした後、目視及び打診により状況を確認し、じゅんか等不良箇所を発見した場合には、監督職員と協議すること。

- ・8-1-26 あと施工アンカーの施工確認試験 (8.12.7)

確認試験 ◎行う ・行わない
試験方法 ◎引張試験 (確認強度は図示による) ・

- ・8-1-27 アンカーボルトの保持及び埋込み工法 (欄仕 7.10.3) (欄仕様 7.10.1)

・構造用アンカーボルト
材質 ・SNR400B ・SNR490B
埋込み工法 ・図示
・建方用アンカーボルト
材質 ・SS400
埋込み工法 ・A種 ◎B種

8－2章 耐震改修工事

- ・8-2-1 打増し壁に用いるシアコネクタ (8.2.4)

現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのシアコネクタ種類 ◎「24 あと施工アンカーの材料」による ・
間隔 (mm) ◎500×500 ・図示

- ・8-2-2 増設・補強工事のコンクリートの打込み (8.21.8) (8.23.5)

工法の種類 ・流し込み工法 ・圧入工法

- ・8-2-3 柱補強 (8.23.5,6) (8.24.1)

・溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法
・鋼板巻き工法及び鋼帯巻き付け工法
・連続繊維補強工法

- ・8-2-4 連続繊維シート巻き (8.2.13) (8.24.1)

材料・形状 採用した工法の規定を満足するもの
材質 引張り強度 (含浸硬化後) ・2500N/mm2 以上 ・3000N/mm2 以上
ヤング係数 (含浸硬化後) ・2.35×105N/mm2 程度 ・2.30×105N/mm2 以上
工法 ◎ (財) 日本建築防災協会の評価を受けた工法 ・
下地調整
仕上げモルタルの除去 ◎行う ・行わない
ひびわれ部の改修工法の種類 ・樹脂注入方法 ・Ｕカットシール材充填方法 ・シール工法
柱の隅角部の面取り ◎工法の評価内容による

- ・8-2-5 耐震スリットの施工 (8.25.2)

耐震スリット部の配管等の探査
◎探査器により探査し、配管等の位置の墨出しを行う ・はつり出し
充填材
◎外壁に配置された耐震スリット材は耐火性能及び止水性能を有するものとし、その他は図示による。

9章 環境配慮工事

○9-1 アスベスト粉じん濃度測定 (9.1.1)				
測定名称	測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)	備考
・測定 1	処理作業前	処理作業室内	各点	—
・測定 2		施工区画周辺または敷地境界	計点	—
・測定 3	処理作業中	処理作業室内	各点	—

・測定 4		セキュリティゾーン入口	各点	空気の流れを確認
・測定 5		負圧・除じん装置の排出口 (処理作業室外の場合)	各点	除じん装置の性能確認
●測定 6		施工区画周辺または敷地境	計点	—
・測定 7	処理作業後	処理作業室内	各点	—
・測定 8	隔離シート撤去前	施工区画周辺または敷地境界	計点	—
アスベスト粉じん濃度測定は「JIS K 3850-1 空気中の繊維状粒子測定方法-第 1 部：光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法」による位相差・分散顕微鏡法による。 測定機関は、都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。				
	測定 3	測定 1, 2, 4, 6, 7, 8	測定 5	
計測機器	位相差顕微鏡			
メンブレンフィルタの直径	25 mm		47 mm	
試料の吸引流量	1 l/min	5 l/min	10 l/min	
試料の吸引時間	5 min	120 min	240 min	
試料の透明化	アセトシートリアセチレン法またはシュウ酸ジエチル法			
計数条件	総アスベスト繊維数 200 本または視野数 50 視野			
計数アスベスト	直径 3 μm 未満、長さ 5 μm 以上、長さ と直径比 3：1 以上			
定量限界	50f/l	0.5f/l	0.3f/l	
報告書の作成 (記載する項目)				
ア 測定結果				
イ 測定時間				
ウ 測定位置 (測定高さとともに図面上に記載する)				
エ サンプリング条件 (メンブレンフィルタ直径、吸引時間、吸引空気量)				
オ マウンティング方法				
カ 顕微鏡視野面積、計数視野数				
キ 測定時 (各測定場所ごと) 天候、温度、湿度、外気の風速及び風向				

○9-2 アスベスト含有材の処理 (9.1.3～6)

- 除去範囲 ・図示 ・

除去工法 改修標仕 9.1.3 によるほか、除去の部位・内容に応じた除去は専門工事業者の仕様による。
処理方法 ◎密封処理 (二重袋梱包) ◎湿潤化 ・セメント固化
隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機フィルタ、粉じん機フィルタについても密封処理を行う。
除去したアスベスト含有吹付け材等の処分
・埋立処分 (管理型最終処分場) ・中間処理 (溶融施設または無害化処理施設)

- ・アスベスト含有保温材の除去
除去範囲 ・図示 ・
除去工法 ・改修標仕 9.1.4 による (原形のまま、手ばらしが可能な場合)
処理方法 ◎密封処理 (二重袋梱包) ◎湿潤化 ・セメント固化
除去したアスベスト含有保温材の処分
・埋立処分 (管理型最終処分場) ・中間処理 (溶融施設または無害化処理施設)

- ・アスベスト含有成型板等の除去
除去範囲 ・図示 ・
除去工法 ・改修標仕 9.1.5 による
除去したアスベスト含有成形板等の処分
・アスベスト含有石こうボード
◎埋立処分 (管理型最終処分場)
・アスベスト含有石こうボードを除くアスベスト含有成形板等
・埋立処分 (安定型最終処分場) ・中間処理 (溶融施設または無害化処理施設)

- アスベスト含有建築用仕上塗材の除去
除去範囲 ・図示 ・
除去工法 ・改修標仕 9.1.6 による
除去したアスベスト含有建築用仕上塗材の処分
●埋立処分 (管理型最終処分場)
・埋立処分 (安定型最終処分場)
・中間処理 (溶融施設または無害化処理施設)

・9-3 外断熱改修工事 (9.3.2～4)	
断熱材の種類	
材料名	厚さ (mm)
・ビーズ法ポリスチレンフォーム (ノンフロン [G])	
・押出法ポリスチレンフォーム (ノンフロン [G])	
・硬質ウレタンフォーム (ノンフロン [G])	
・フェノールフォーム	
・ロックウール	
・グラスウール	
外装材の種類	
・	防火性能
既存外壁の仕上材の撤去 ・有 ・無 下地面の清掃及び下地調整 ◎断熱材製造所の指定する仕様 通気層 ・有 (mm) ・無 試験施工、工法及び品質は、確認できる資料を提出し監督職員の承諾を受ける。 特記なき事項は、製造所の仕様による。	

- ・9-4 屋上緑化改修工事 [G] (9.4.1)

植栽基盤及び材料
・屋上緑化軽量システム
芝及び地被類の樹種並びに種類等 ◎図示

- ・9-5 透水性アスファルト舗装改修工事 [G] (9.5.3,4,9) (表 9.5.1,3,5)

凍上抑制層の材料
・凍上抑制層 ◎再生クラッシャーラン [G] ・クラッシャーラン切込み砂利 ・砂
厚さは図示による
盛り土に用いる材料
・A種 ◎B種 ・C種 ・D種
路床安定処理
◎添加材料による安定処理
種類 ・普通ポルトランドセメント ・フライアッシュセメントB種
・生石灰 () ・消石灰 ()
添加量 ・ kg/m3 (目標 CBR ・5 以上 ・)
路盤材料
◎再生クラッシャーラン (RC-40) [G]
・クラッシャーラン鉄鋼スラグ (CS-40) [G]

- ・クラッシャーラン (C-40)
透水性アスファルト舗装に用いる場合は透水性の高いもの
路床土の支持力比 (CBR) 試験 ◎行う (・乱した土 ◎乱さない土) ・行わない
路床締固め度の試験 ◎行う ・行わない
砂の粒度試験 ◎行う ・行わない
現場 CBR 試験 ◎行う ・行わない
セメント及びセメント系固化剤を使用した路床安定処理を行った場合の六価クロム溶出試験
◎行う 「セメント及びセメント系固化剤を使用した六価クロム溶出試験要領 (案)」による。
アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ◎行わない

- ・9-6 PCB含有シーリング材の処分

(1) 事前調査等
シーリング材のサンプルについて、専門分析機関で分析を行うこと。
・現場においてサンプルを採取
採取箇所 ◎外壁目地 ・図示 ・
採取箇所数 ◎部材が異なる毎に 1 箇所 ・図示・
分析により PCB の含有が確認された場合は施工調査等を行い、適切に処理すること。
(2) 施工調査等
調査範囲 ◎図示 ・
処分にあたり、あらかじめ次の事項について調査等を行うこと。
シーリング使用部位の確認
シーリング長さの確認
施工範囲と工事管理区分の確認
仮設計画
廃棄物等の搬出方法
(3) 除去処理工事
除去方法
「標準施工要領書 (日本シーリング工事共同組合連合会／日本シーリング材工業会)」による。

・9-7 処理に注意を要する建設副産物			
名称	仕様	数量	備考
・C C A 処理木材			
・石綿含有石こうボード			
・ひ素・カドニウム含有石こうボード			
・上記以外の石こうボード			

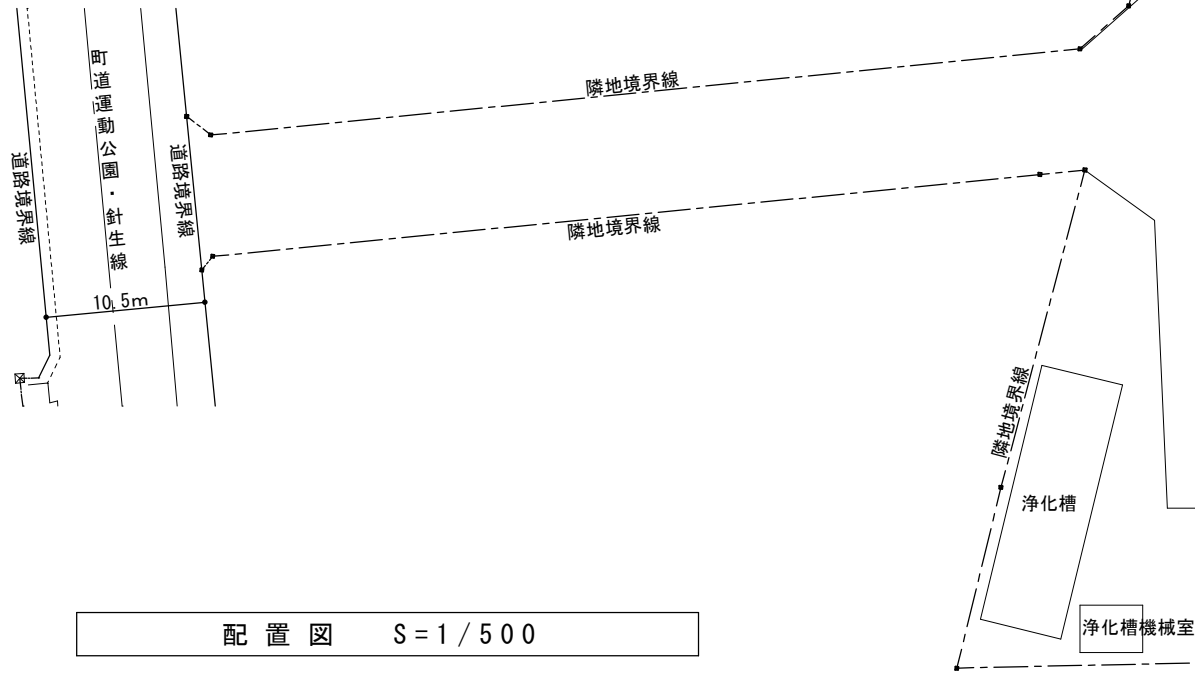
- 石こうボードの撤去にあたっては、下記に事項について施工前調査を行う。
調査結果は、図面及び写真に記録し、監督職員に提出する。
(1) 石こうボードの使用部位の確認
(2) 石こうボードの種類、製造会社名、厚さ等の確認、記録
(3) 石こうボードの使用数量の確認
(4) 施工範囲等の確認
処分を委託する際には、マニフェストの備考欄に石こうボードの有無、製造会社名等を記載する。

別表－1 他工事との取り合い		●印を適用する						
工事内容	建築工事	電気設備工事	機械設備工事	塗装工事	昇降機設備工事			
仮設電力の引込み (分電盤・キュービクルまで)	●	○	○	○	○			
仮設電力の引込み (分電盤・キュービクル以降)	●	●	●	○	○			
仮設電力の電気料	●	●	●	●	●			
本受電後の電気基本料金	○	●	○	○	○			
本受電後引渡しまでの電気使用料	●	●	●	●	●			
仮設水道の引込み (メーターまで)	●	○	○	○	○			
仮設水道の引込み (メーター以降)	●	●	●	●	●			
仮設水道及び本設後引き渡しまでの使用料	●	●	●	●	●			
梁・壁・床の開口、貫通、埋込部のスリーブ・型枠 (電気、機械の配管等)	○	●	●	○	○			
すべての開口、貫通、埋込部の補強	●	○	○	○	○			
屋上に設置する機器の基礎 (電気及び機械機器)	●	○	○	○	○			
屋内及び屋外に設置する機器の基礎 (電気及び機械機器)	○	●	●	○	○			
天井・壁 (軽量鉄骨下地) に付く機器の位置・墨出し	○	●	●	○	○			
天井・壁 (軽量鉄骨下地) に付く機器の開口部補強を要しない場合の切込み	○	●	●	○	○			
天井・壁 (軽量鉄骨下地) に付く機器の開口部補強を要する場合の切込み	●	○	○	○	○			
天井・壁 (軽量鉄骨下地) に付く機器の開口部補強	●	○	○	○	○			
天井換気扇の取付	○	○	●	○	○			
壁・窓用換気扇の取付	○	○	●	○	○			
壁・窓用換気扇取付枠	●	○	○	○	○			
点検口の取付 (床・壁・天井・P S 等)	●	○	○	○	○			
防煙ダンパー	○	○	●	○	○			
防煙ダンパー用煙感知器の配管・配線	○	○	○	○	○			
床仕上材の穴あけ (フローリングブロック等)	●	●	○	○	○			
ルーフドレイン及び縦どい (樹及び側溝までの配管)	●	○	○	○	○			
配線ビッド及び蓋	●	○	○	○	○			
電極棒及びフロートスイッチ	○	○	○	○	○			
自動厚、電動シャッター、電動スクリーン及び電動カーテン等 2 次側配線	●	●	○	○	○			
機械設備の制御、操作盤への電源供給制御	○	○	○	○	○			
機械設備の制御、操作盤の 2 次側配線	○	●	●	○	○			
天井吊り形放熱器 (F C U 等) と操作スイッチとの配管・配線・接地工事	○	○	○	○	○			
消火栓箱総合盤用穴あけ	○	○	●	○	○			
設備機器のインターロックの配管・配線	○	○	○	○	○			
電気設備のフェンス・金網	○	●	○	○	○			
ガス漏れ警報器 (単設型)	○	●	●	○	○			
ガス漏れ警報器 (集中監視型)	○	○	○	○	○			
ガス漏れ警報用器用コンセント	○	●	○	○	○			
造り付け流し台	●	●	○	○	○			
造り付け流し台排水トラップ	●	○	○	○	○			
既製流し台及び排水トラップ (ガス台・洗面化粧台等を含む)	○	○	●	○	○			
既製吊戸棚	●	○	○	○	○			
鏡 (姿見は建築工事)	○	○	●	○	○			
昇降機の出入口開口の型枠	●	○	○	○	○			
昇降機の乗場ボタン、インジケータ配管用スリーブ及び型枠	●	○	○	○	○			
昇降機のビッド内保守用コンセント	○	●	○	○	○			
外壁取付ガラリ、排煙口	●	○	○	○	○			
体育館などの器具・安定器など取付下地金物	●	○	○	○	○			

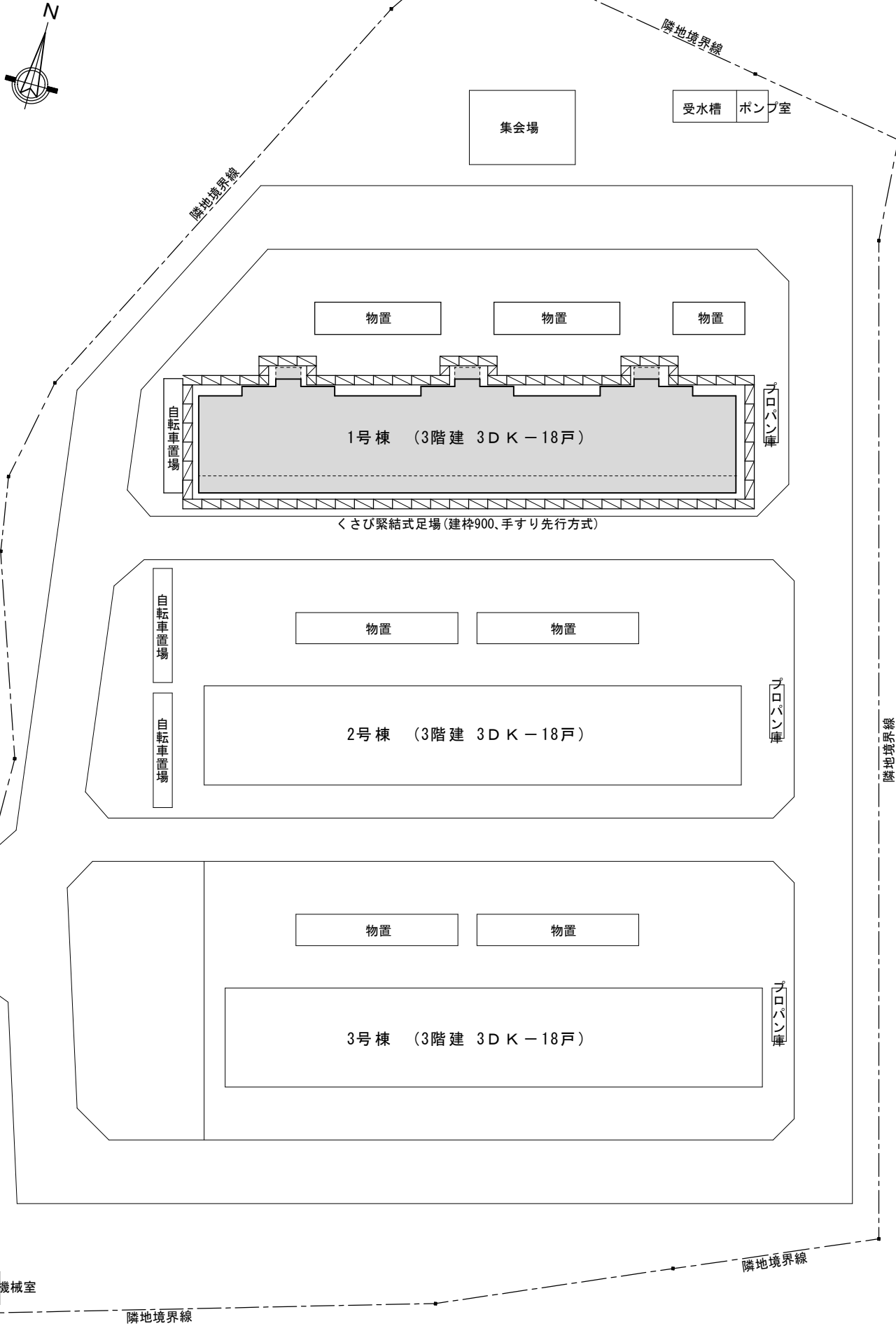
工事名称	前原団地 1 号棟屋根・外壁改修工事		
図面名称／縮尺	特記仕様書（その 6）		図面番号
設計年月日	2025 年 10 月		A－0 6
設計者	一級建築士 大臣登録第 200584 号 大 高 智		
発注者	那須町ふるさと定住課		



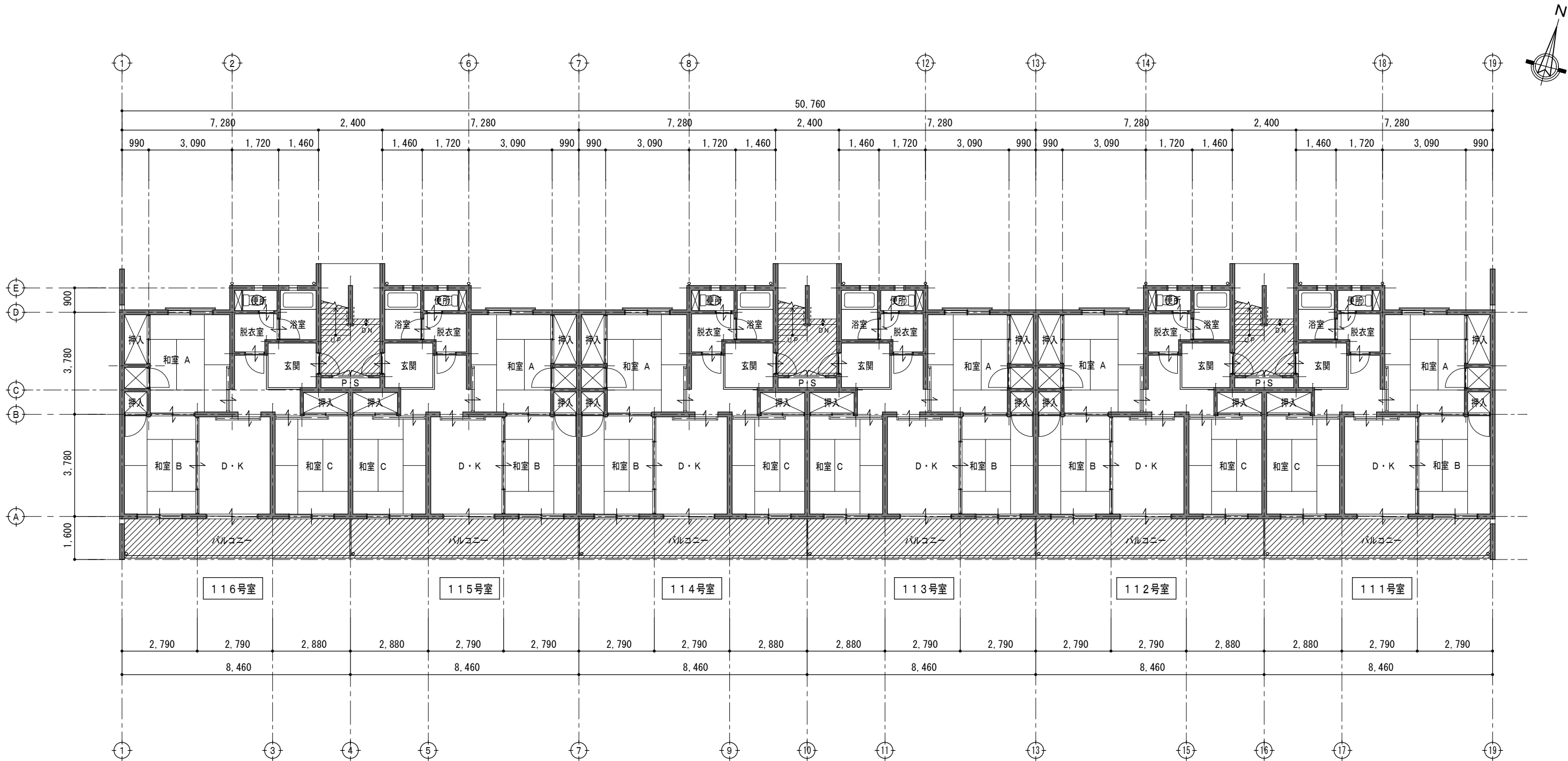
案内図



配置図 S=1/500



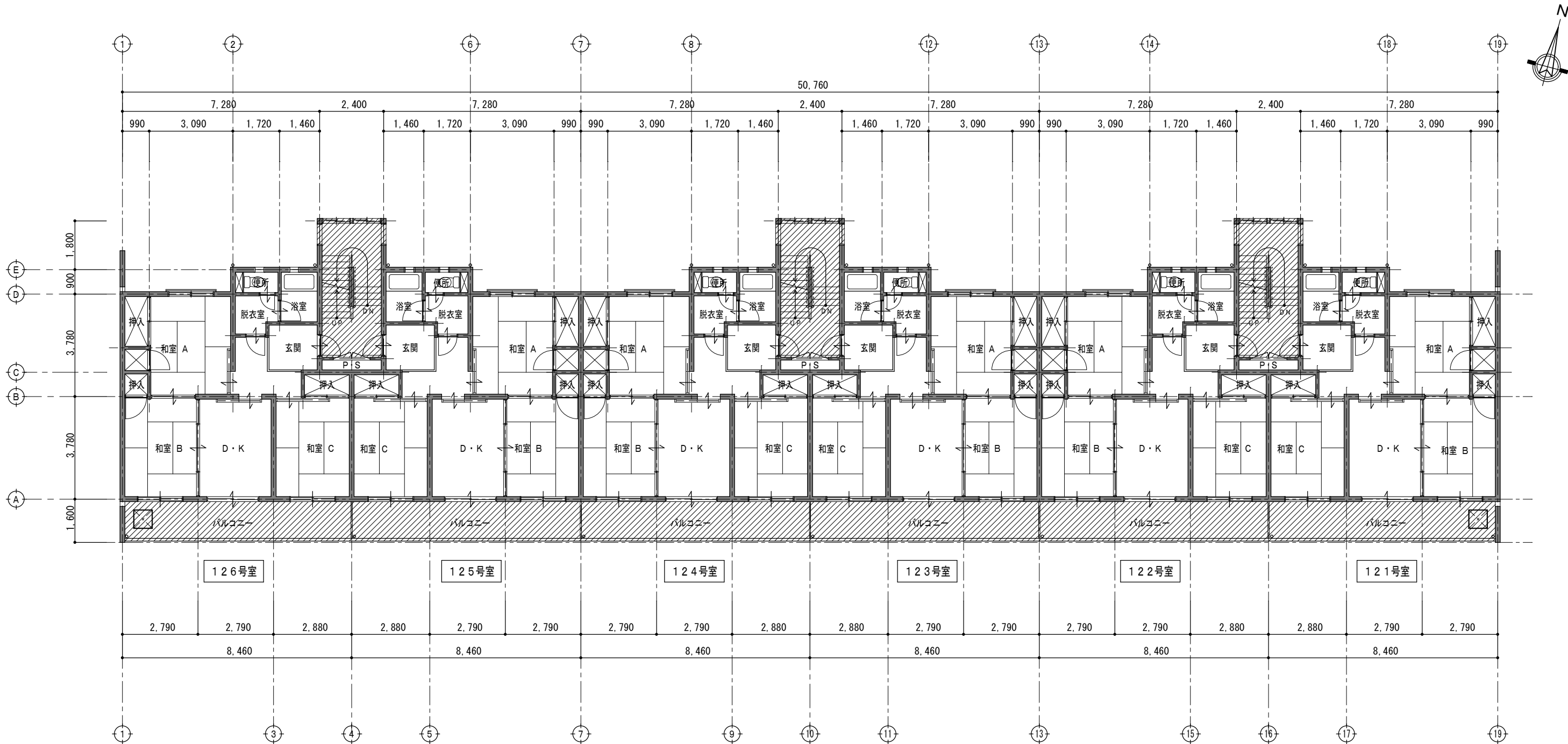
特記事項	一級建築士事務所 H11-11111111 建築設計 大 高 智 栃木県那須郡那須町寺子乙3938-95 TEL0287-72-6372 FAX0287-72-7263 栃木県知事登録 A 木 第2617号 大臣登録第200584号 一級建築士 大 高 智	工事名称 前原団地1号棟屋根・外壁改修工事	図面名称 1号棟 案内図, 配置図	縮尺	図面番号 A-O 7
				S=1/500	
				作図 2025.09.11	



凡例
工事範囲を示す

1階平面図 S=1/150

部 位	既 存 仕 上
屋 根	フッ素樹脂鋼板(7)0.4段葺き
外 壁	コンクリート打放し 吹付タイル(Eタイプ大玉押えウレタントップ仕上) 打継目地:アクリル系コーキング25×15,化粧目地アクリル系コーキング25×10
軒 天	コンクリート打放し 吹付タイル(Eタイプ大玉押えウレタントップ仕上)
窓 庇	コンクリート打放し 吹付タイル(Eタイプ大玉押えウレタントップ仕上)
バルコニー	塩ビシート防水(7)2.0(歩行用密着工法) ドレイン:中継用鑄鉄製100Φ
軒 樋	塩ビシート防水(7)1.3(密着工法) 鑄鉄製ルーフトレイン100Φ用
豎 樋	塩ビ管 100ΦV P塗り,階段室のみ塩ビ管 75ΦV P塗り
階段室	天井:吹付タイル(Eタイプ大玉押えウレタントップ仕上) 壁:吹付タイル(Eタイプ大玉押えウレタントップ仕上)



凡例
工事範囲を示す

2階平面図 S=1/150

部 位	既 存 仕 上
屋 根	フッ素樹脂鋼板(7)0.4段葺き
外 壁	コンクリート打放し 吹付タイル(Eタイプ大玉押えウレタントップ仕上) 打継目地:アクリル系コーキング25×15,化粧目地アクリル系コーキング25×10
軒 天	コンクリート打放し 吹付タイル(Eタイプ大玉押えウレタントップ仕上)
窓 庇	コンクリート打放し 吹付タイル(Eタイプ大玉押えウレタントップ仕上)
バルコニー	塩ビシート防水(7)2.0(歩行用密着工法) ドレイン:中継用鑄鉄製100Φ
軒 樋	塩ビシート防水(7)1.3(密着工法) 鑄鉄製ルーフトレイン100Φ用
豎 樋	塩ビ管 100ΦV P塗り,階段室のみ塩ビ管 75ΦV P塗り
階段室	天井:吹付タイル(Eタイプ大玉押えウレタントップ仕上) 壁:吹付タイル(Eタイプ大玉押えウレタントップ仕上)

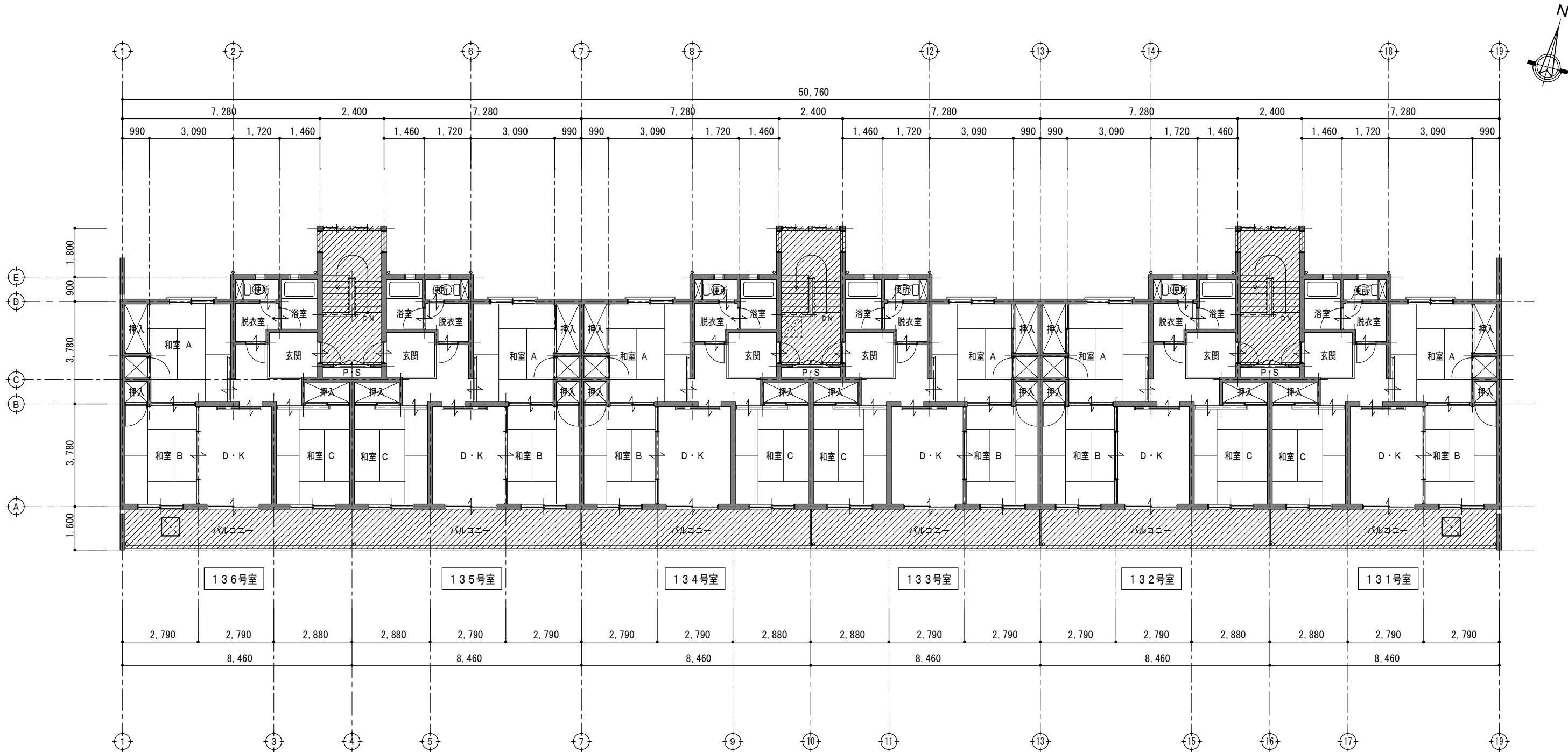
特記事項

一級建築士事務所
大 高 建築設計
栃木県知事登録 A 木 第2617号
大臣登録第200584号
一級建築士 大 高 智
栃木県那須郡那須町寺子乙3938-95 TEL0287-72-6372 FAX0287-72-7263

工事名称
前原団地1号棟屋根・外壁改修工事

図面名称
1号棟 2階平面図

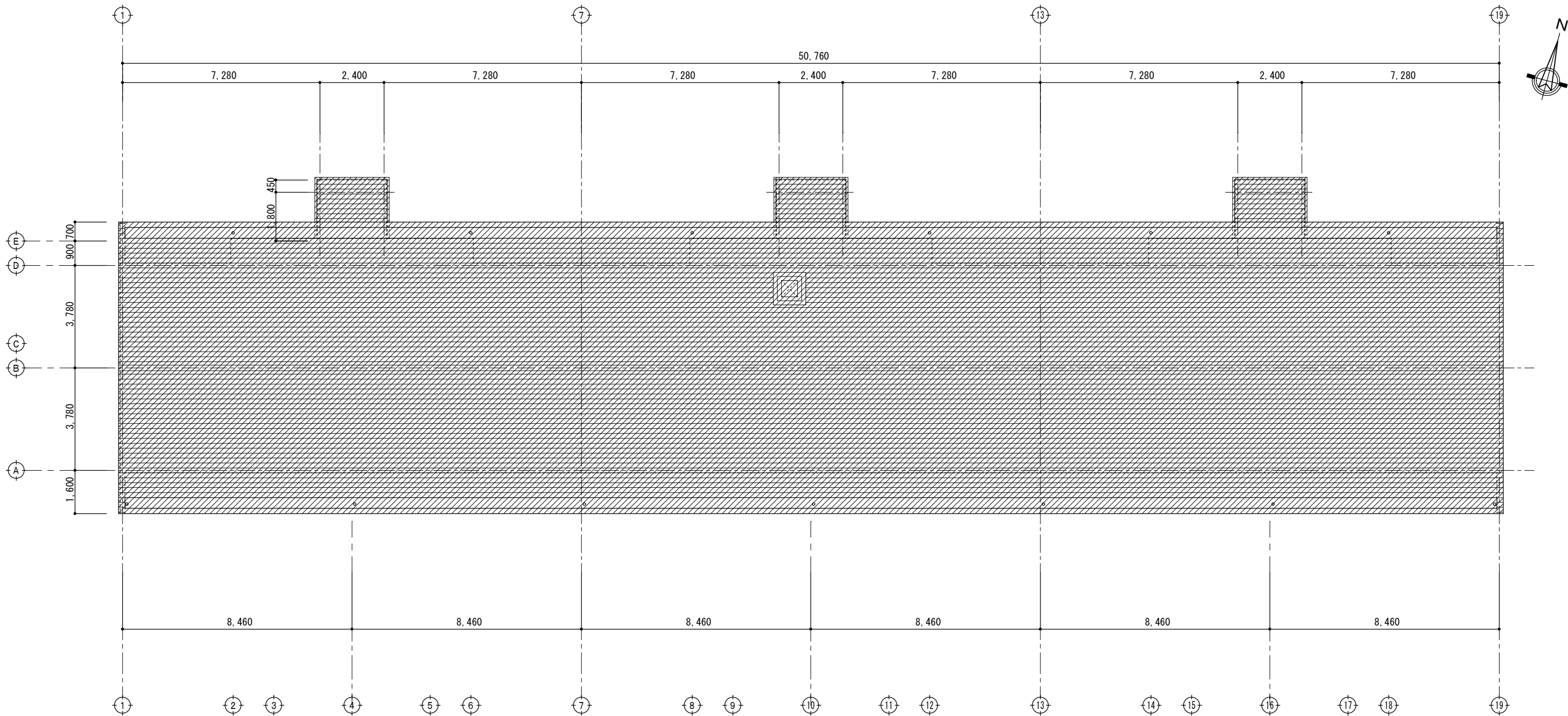
縮 尺
S=1/150
作 図 2025.09.29
図面番号
A-O 9



凡例
工事範囲を示す

3階平面図 S=1/150

部 位	既 存 仕 上
屋 根	フッ素樹脂鋼板(7)0.4段葺き
外 壁	コンクリート打放し 吹付タイル(Eタイプ大玉押えウレタントップ仕上) 打継目地:アクリル系コーキング25×15,化粧目地アクリル系コーキング25×10
軒 天	コンクリート打放し 吹付タイル(Eタイプ大玉押えウレタントップ仕上)
窓 庇	コンクリート打放し 吹付タイル(Eタイプ大玉押えウレタントップ仕上)
バルコニー	塩ビシート防水(7)2.0(歩行用密着工法) ドレイン:中継用鑄鉄製100Φ
軒 樋	塩ビシート防水(7)1.3(密着工法) 鑄鉄製ルーフトレイン100Φ用
豎 樋	塩ビ管 100ΦV P塗り,階段室のみ塩ビ管 75ΦV P塗り
階段室	天井:吹付タイル(Eタイプ大玉押えウレタントップ仕上) 壁:吹付タイル(Eタイプ大玉押えウレタントップ仕上)



凡例
工事範囲を示す

屋根伏図 S=1/150

部 位	既 存 仕 上
屋 根	フッ素樹脂鋼板(7)0.4段葺き
外 壁	コンクリート打放し 吹付タイル(Eタイプ大玉押えウレタントップ仕上) 打継目地:アクリル系コーキング25×15,化粧目地アクリル系コーキング25×10
軒 天	コンクリート打放し 吹付タイル(Eタイプ大玉押えウレタントップ仕上)
窓 庇	コンクリート打放し 吹付タイル(Eタイプ大玉押えウレタントップ仕上)
バルコニー	塩ビシート防水(7)2.0(歩行用密着工法) ドレイン:中継用鑄鉄製100Φ
軒 樋	塩ビシート防水(7)1.3(密着工法) 鑄鉄製ルーフトレイン100Φ用
豎 樋	塩ビ管 100ΦV P 塗り, 階段室のみ塩ビ管 75ΦV P 塗り
階段室	天井:吹付タイル(Eタイプ大玉押えウレタントップ仕上) 壁:吹付タイル(Eタイプ大玉押えウレタントップ仕上)

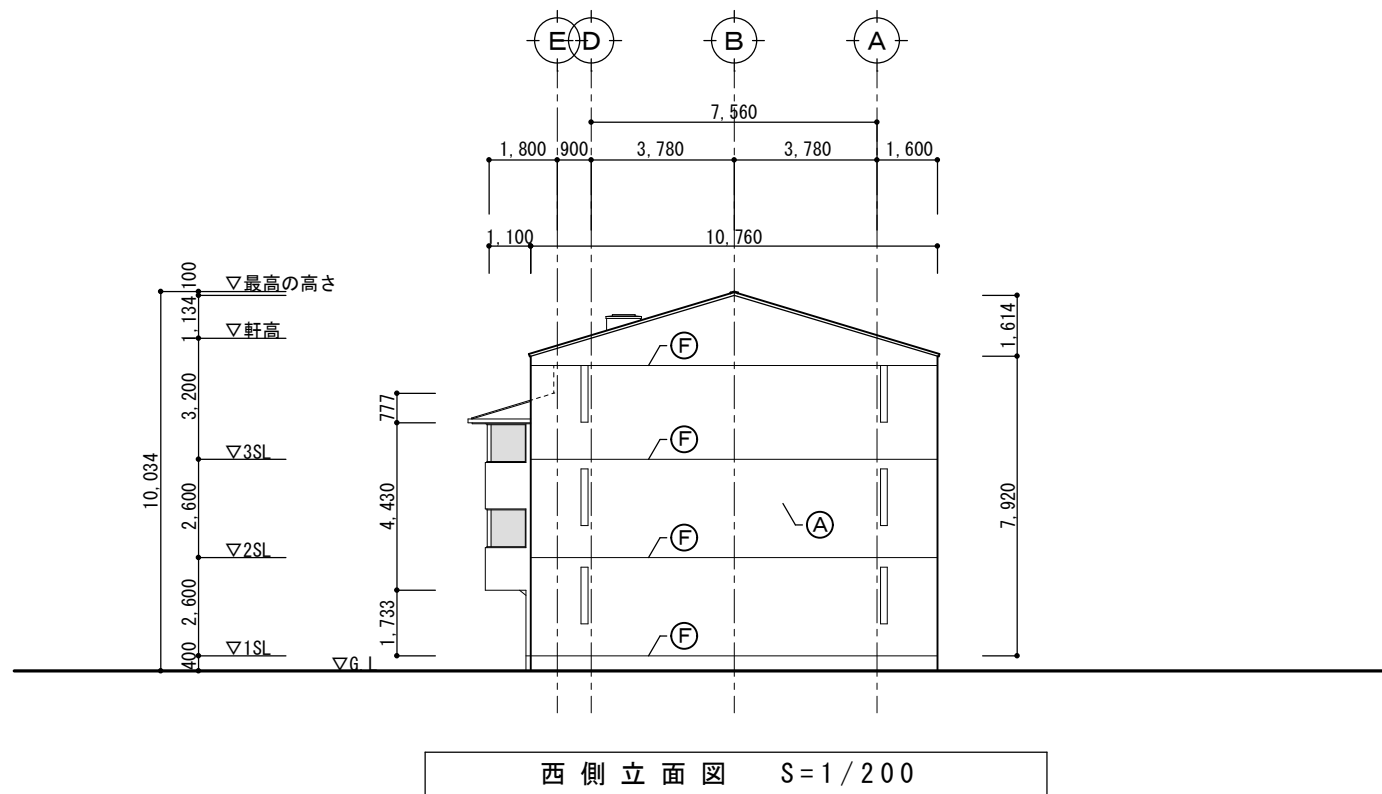
特記事項

一級建築士事務所
H.I.H. CO., LTD. 建築設計 大 高
栃木県知事登録 A 木 第2617号
大臣登録第200584号
一級建築士 大 高 智
栃木県那須郡那須町寺子乙3938-95 TEL0287-72-6372 FAX0287-72-7263

工事名称
前原団地1号棟屋根・外壁改修工事

図面名称
1号棟 屋根伏図

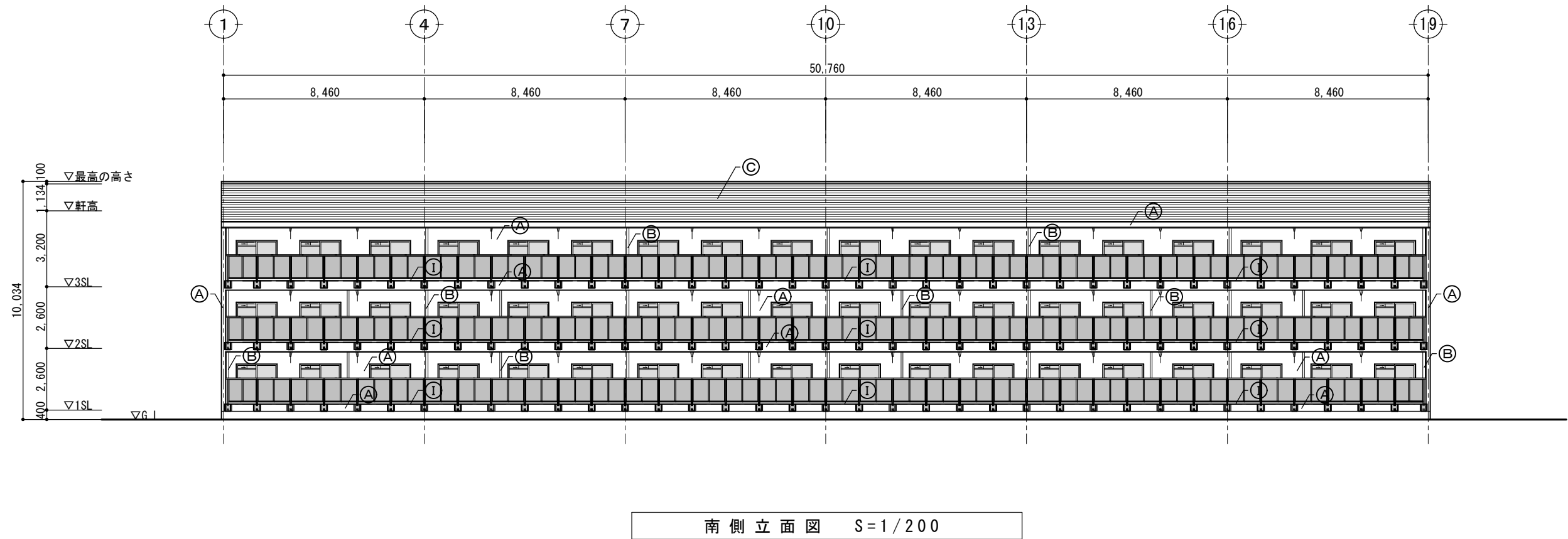
縮 尺
S=1/150
作 図 2025.09.29
図面番号
A-11

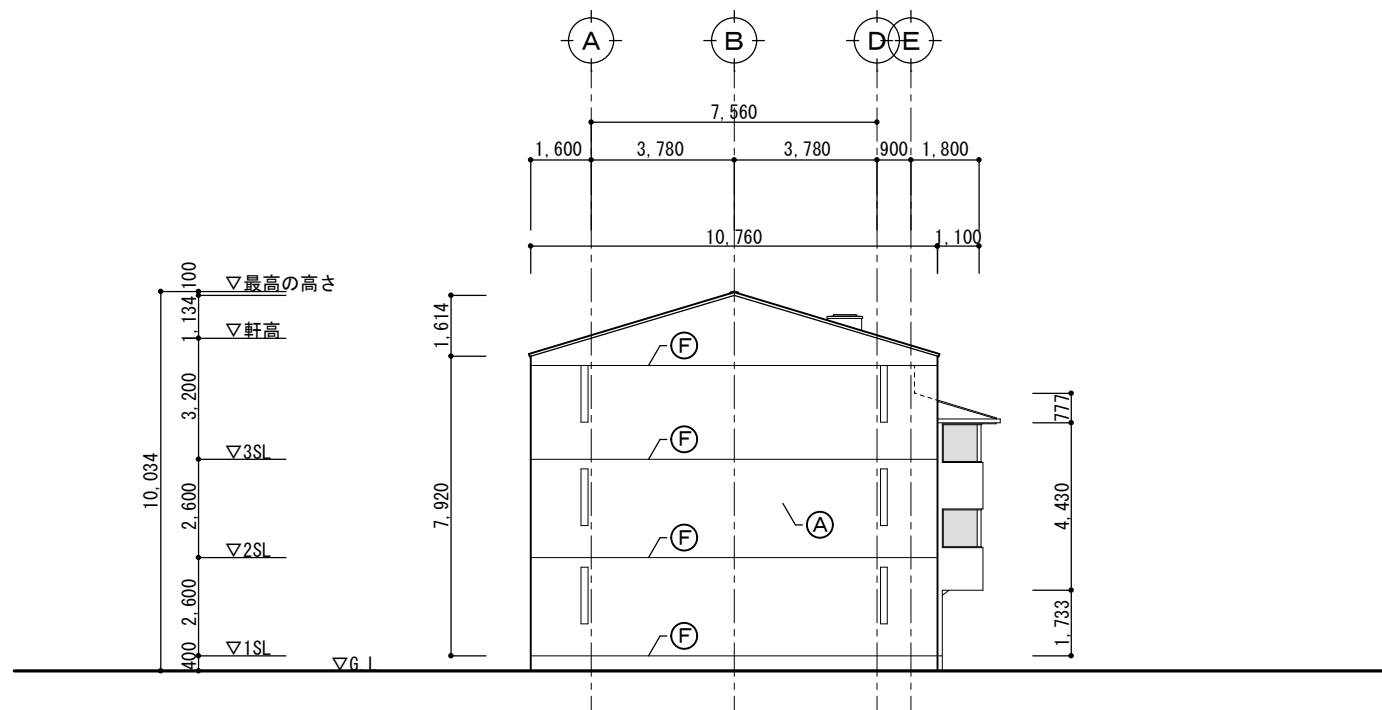


記号	改修仕上
(A)	既存吹付タイル(アスベスト含有)高圧洗浄15MPa程度 下地調整(C-1) 複層塗材RE仕上
(B)	高圧洗浄15MPa程度 下地処理RB種 DP塗装
(C)	高圧洗浄15MPa程度 フッ素鋼板用プライマー1回 フッ素樹脂塗料(遮熱)2回塗り
(D)	シート防水撤去 下地調整 ウレタン塗膜防水仕上
(E)	EP-G塗装 避難表示ステッカー両面貼替
(F)	外壁目地 シーリング(変成シリコン系 MS-2 25×10)
(G)	建具廻り シーリング(変成シリコン系 MS-2 15×10)
(H)	下地処理RB種 DP塗装
(I)	注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入

〈アスベストについて〉
アスベスト含有部位である吹付部は集塵装置付ウェットサンダー工法による施工とする

〈外部劣化部について〉
外壁劣化部補修数量は、概算とし周囲ケレンの上Uカットシール材充填工法 可とう性エポキシ樹脂充填後、戻し吹き アクリル系主材吹付凹凸模様とする



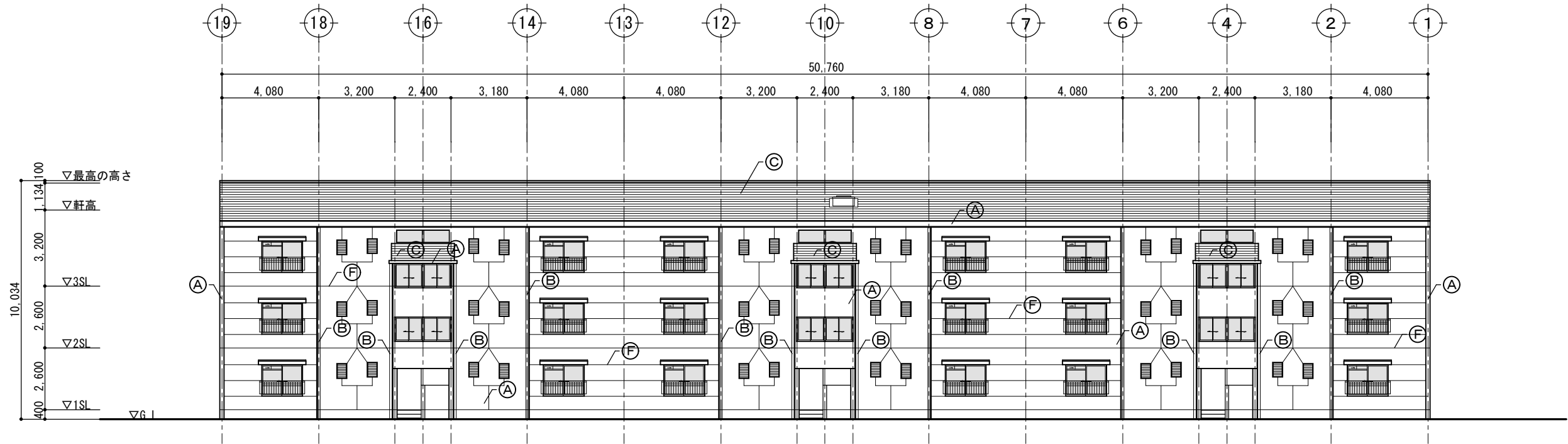


東側立面図 S=1/200

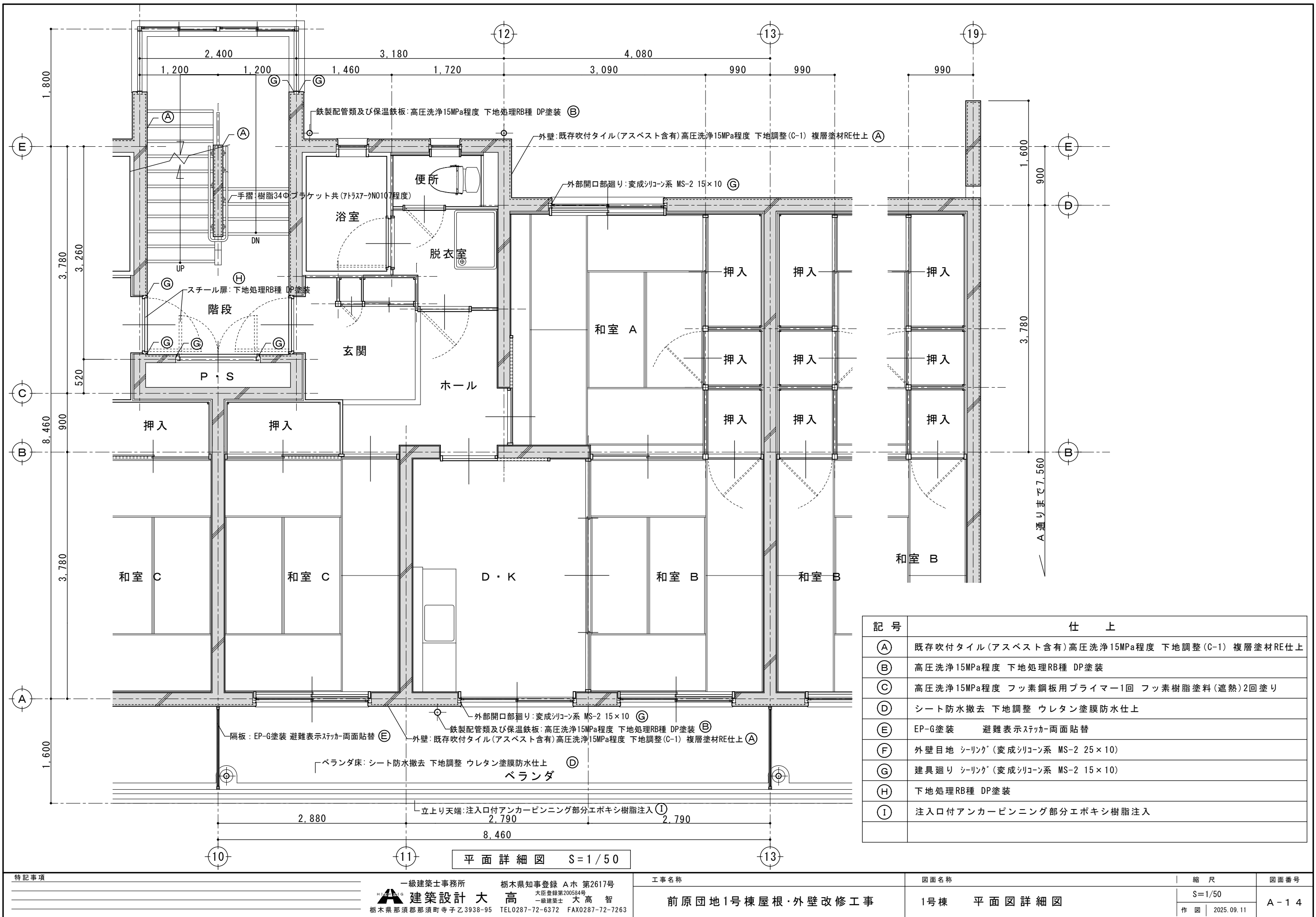
記号	仕上
Ⓐ	既存吹付タイル(アスベスト含有)高圧洗浄15MPa程度 下地調整(C-1) 複層塗材RE仕上
Ⓑ	高圧洗浄15MPa程度 下地処理RB種 DP塗装
Ⓒ	高圧洗浄15MPa程度 フッ素鋼板用プライマー1回 フッ素樹脂塗料(遮熱)2回塗り
Ⓓ	シート防水撤去 下地調整 ウレタン塗膜防水仕上
Ⓔ	EP-G塗装 避難表示ステッカー両面貼替
Ⓕ	外壁目地 シーリング(変成シリコン系 MS-2 25×10)
Ⓖ	建具廻り シーリング(変成シリコン系 MS-2 15×10)
Ⓗ	下地処理RB種 DP塗装
Ⓘ	注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入

〈アスベストについて〉
アスベスト含有部位である吹付部は集塵装置付ウェットサンダー工法による施工とする

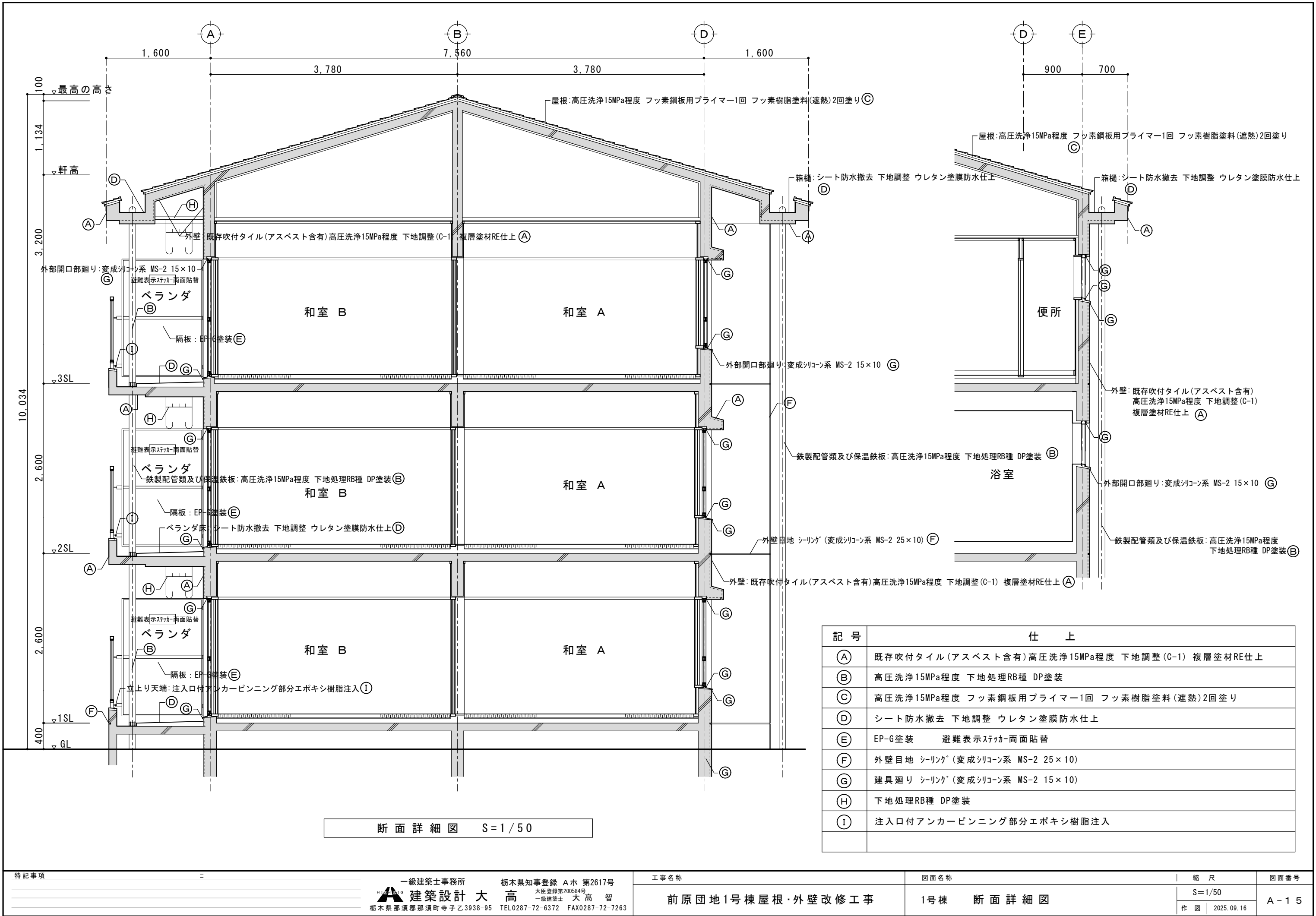
〈外部劣化部について〉
外壁劣化部補修数量は、概算とし周囲ケレンの上Uカットシール材充填工法 可とう性エポキシ樹脂充填後、戻し吹き アクリル系主材吹付凹凸模様とする

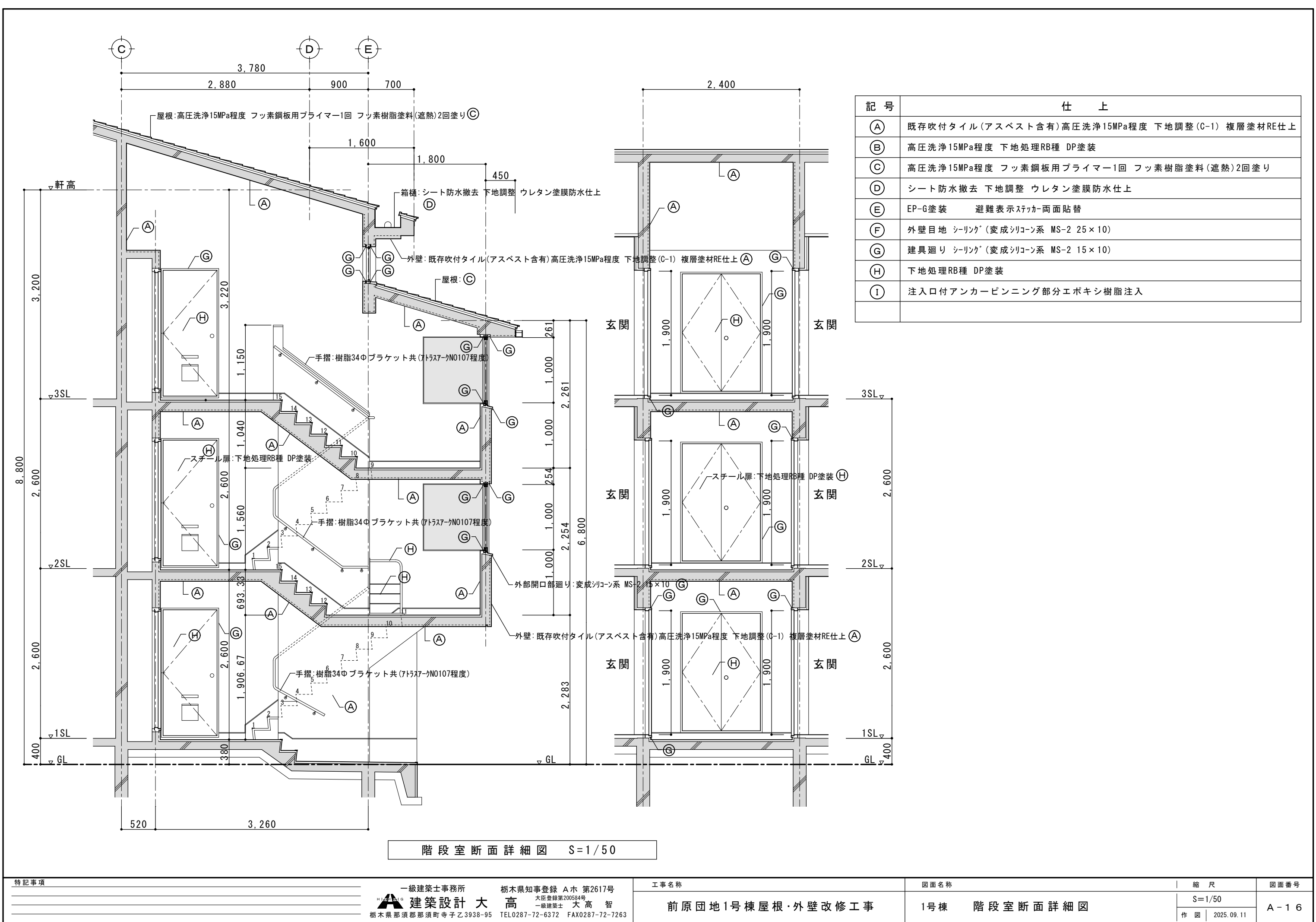


北側立面図 S=1/200



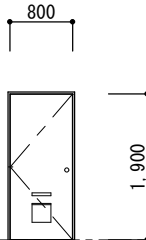
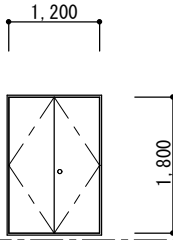
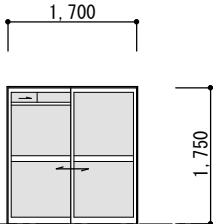
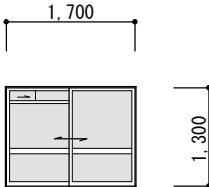
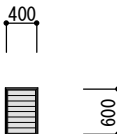
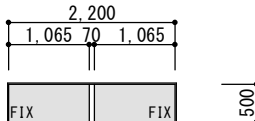
記 号	仕 上
(A)	既存吹付タイル(アスベスト含有)高圧洗浄15MPa程度 下地調整(C-1) 複層塗材RE仕上
(B)	高圧洗浄15MPa程度 下地処理RB種 DP塗装
(C)	高圧洗浄15MPa程度 フッ素鋼板用プライマー1回 フッ素樹脂塗料(遮熱)2回塗り
(D)	シート防水撤去 下地調整 ウレタン塗膜防水仕上
(E)	EP-G塗装 避難表示ステッカー両面貼替
(F)	外壁目地 シーリング(変成シリコン系 MS-2 25×10)
(G)	建具廻り シーリング(変成シリコン系 MS-2 15×10)
(H)	下地処理RB種 DP塗装
(I)	注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入

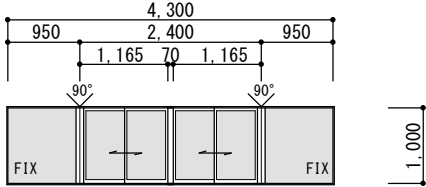




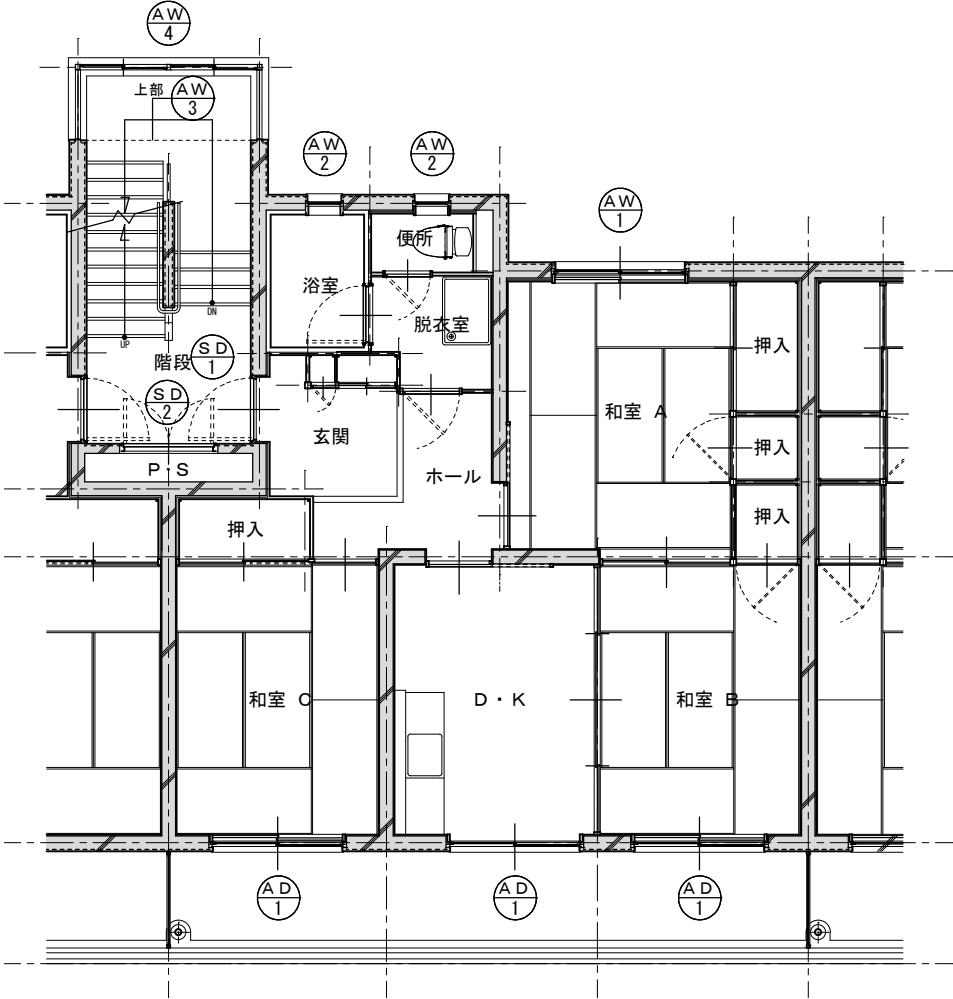
記 号	仕 上
(A)	既存吹付タイル(アスベスト含有)高圧洗浄15MPa程度 下地調整 (C-1) 複層塗材RE仕上
(B)	高圧洗浄15MPa程度 下地処理RB種 DP塗装
(C)	高圧洗浄15MPa程度 フッ素鋼板用プライマー1回 フッ素樹脂塗料(遮熱)2回塗り
(D)	シート防水撤去 下地調整 ウレタン塗膜防水仕上
(E)	EP-G塗装 避難表示ステッカー両面貼替
(F)	外壁目地 シーリング* (変成シリコン系 MS-2 25×10)
(G)	建具廻り シーリング* (変成シリコン系 MS-2 15×10)
(H)	下地処理RB種 DP塗装
(I)	注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入

階段室断面詳細図 S=1/50

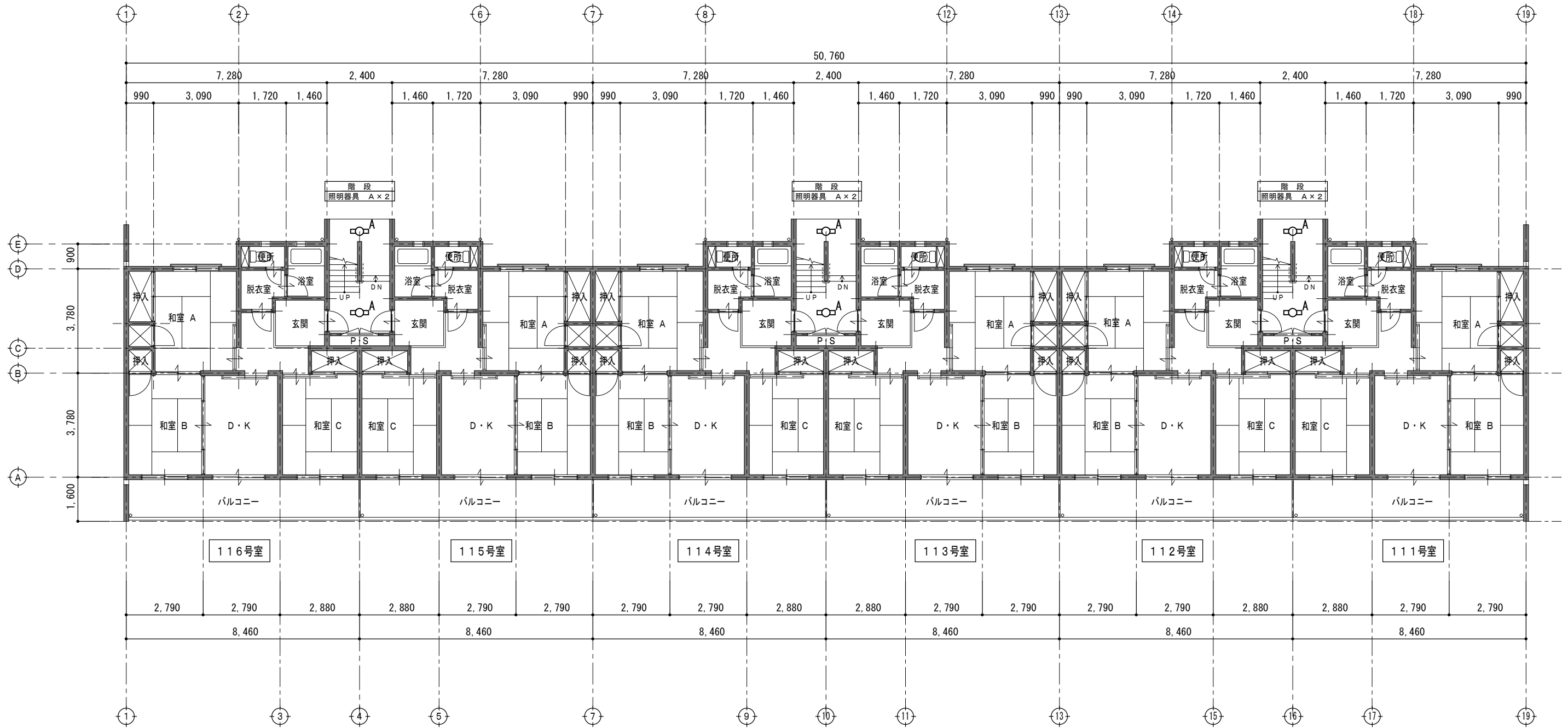
記号	数量	場所	SD1	18	玄関	SD2	9	階段室	AD1	54	和室B、C、D・K	AW1	18	和室A	AW2	36	便所、浴室	AW3	3	階段室		
形状・寸法																						
名 称			片開きスチールドア				両開きスチールドア				引違い掃出し戸				引違い窓		ジャロジー窓				FIX窓	
改修項目			建具周囲：既存シーリング撤去 (15×10) シーリングMS-2 15×10新設 塗装改修：D P 塗装 (下地処理R B種)				建具周囲：既存シーリング撤去 (15×10) シーリングMS-2 15×10新設 塗装改修：D P 塗装 (下地処理R B種)				建具周囲及び水切部：既存シーリング撤去 (15×10) シーリングMS-2 15×10新設				建具周囲及び水切部：既存シーリング撤去 (15×10) シーリングMS-2 15×10新設		建具周囲及び水切部：既存シーリング撤去 (15×10) シーリングMS-2 15×10新設				建具周囲及び水切部：既存シーリング撤去 (15×10) シーリングMS-2 15×10新設	

記号	数量	場所	AW4	6	階段室
形状・寸法					
名 称			FIX付引違い窓		
改修項目			建具周囲及び水切部：既存シーリング撤去 (15×10) シーリングMS-2 15×10新設		

建 具 表 S = 1 / 1 0 0



建 具 キ ー プ ラ ン S=1/100



1階平面図 S=1/150

A	LEDベースライト非常用照明器具	
	直付 D型 20型	
	XWG201DGNCLE9	(AC100V~242V)
		消費電力：6.9W
非常灯タイプ、800lm (FL20形×1灯器具相当) 常時：非常用ライトバー点灯、非常時：非常灯本体組込LED (一般出力型) 点灯 電圧：100~242V対応、蓄電池：ニッケル水素電池 非常灯評定番号：LAL E-032、非常用LEDレンズ：ガラス 常用ライトバー：ポリカーボネート (乳白) +アクリルコーティング 光源寿命 (階段灯専用ライトバー) 40000時間、IP23防湿、点検スイッチ付 自己充電モニタ (緑) 付、リモコン：FSK90910K (別売)		

特記事項

一級建築士事務所
H.I.B. 建築設計 大 高
大 高 智
栃木県那須郡那須町寺子乙3938-95 TEL0287-72-6372 FAX0287-72-7263

栃木県知事登録 A 木 第2617号

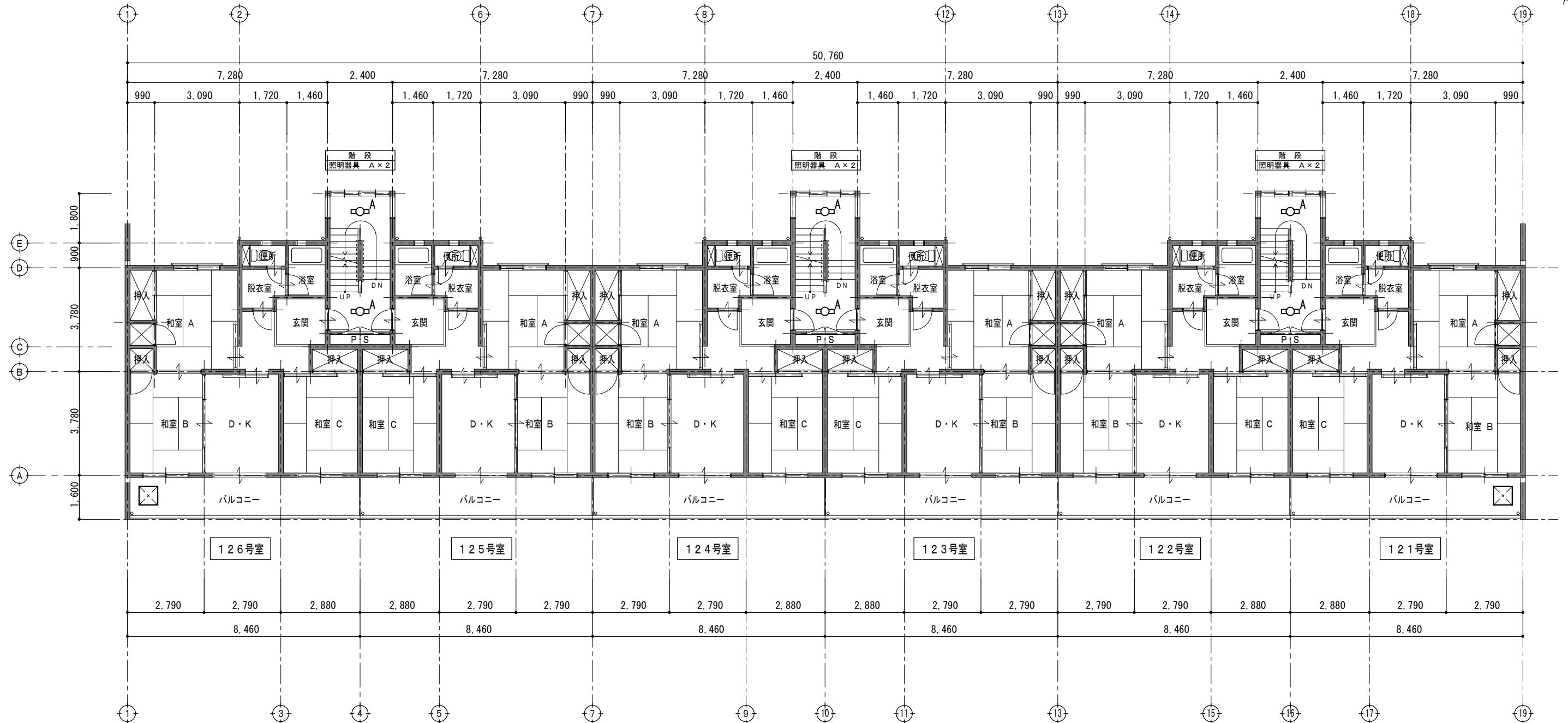
大臣登録第200584号

一級建築士 大 高 智

工事名称
前原団地1号棟屋根・外壁改修工事

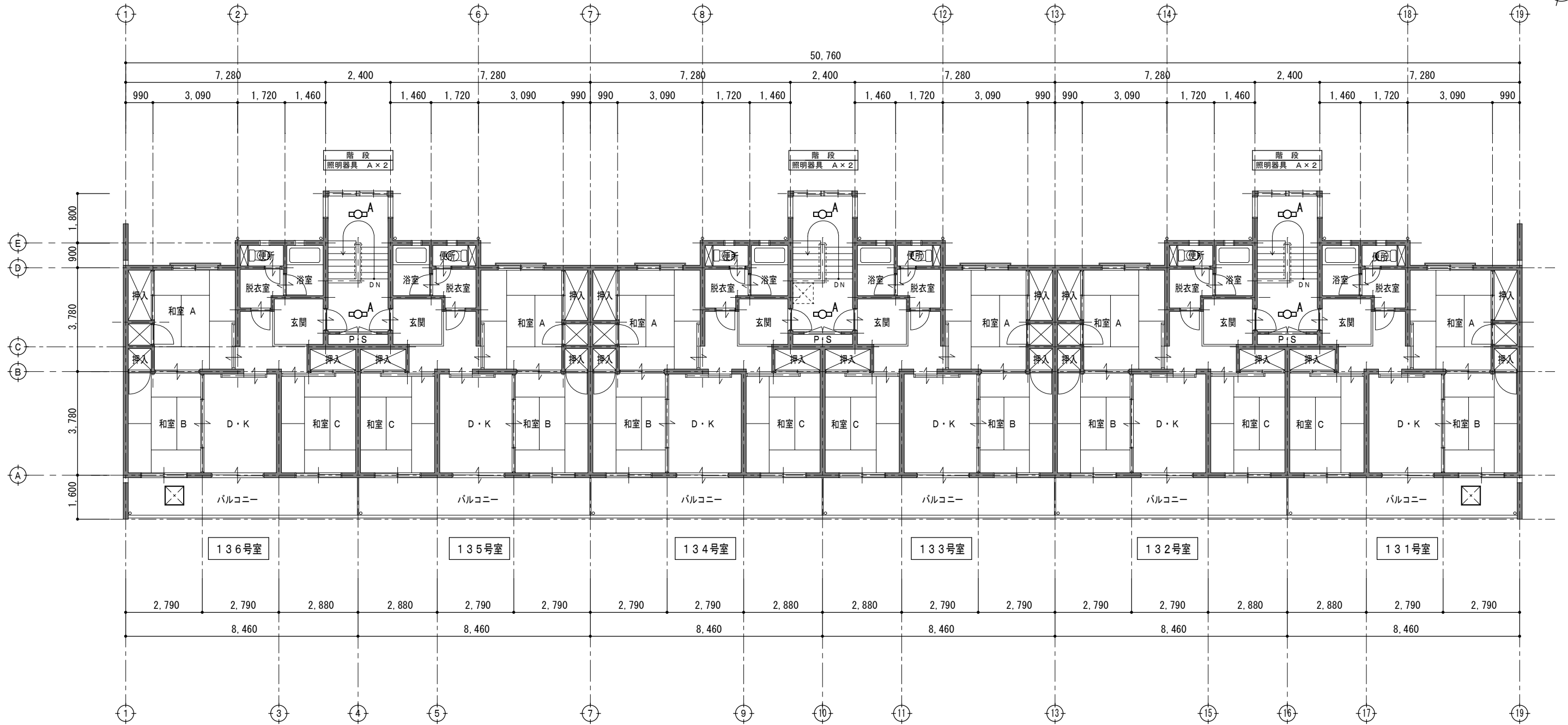
図面名称
1号棟 1階階段照明更新図

縮尺
S=1/150
作図 2025.09.09
図面番号
E-O 1



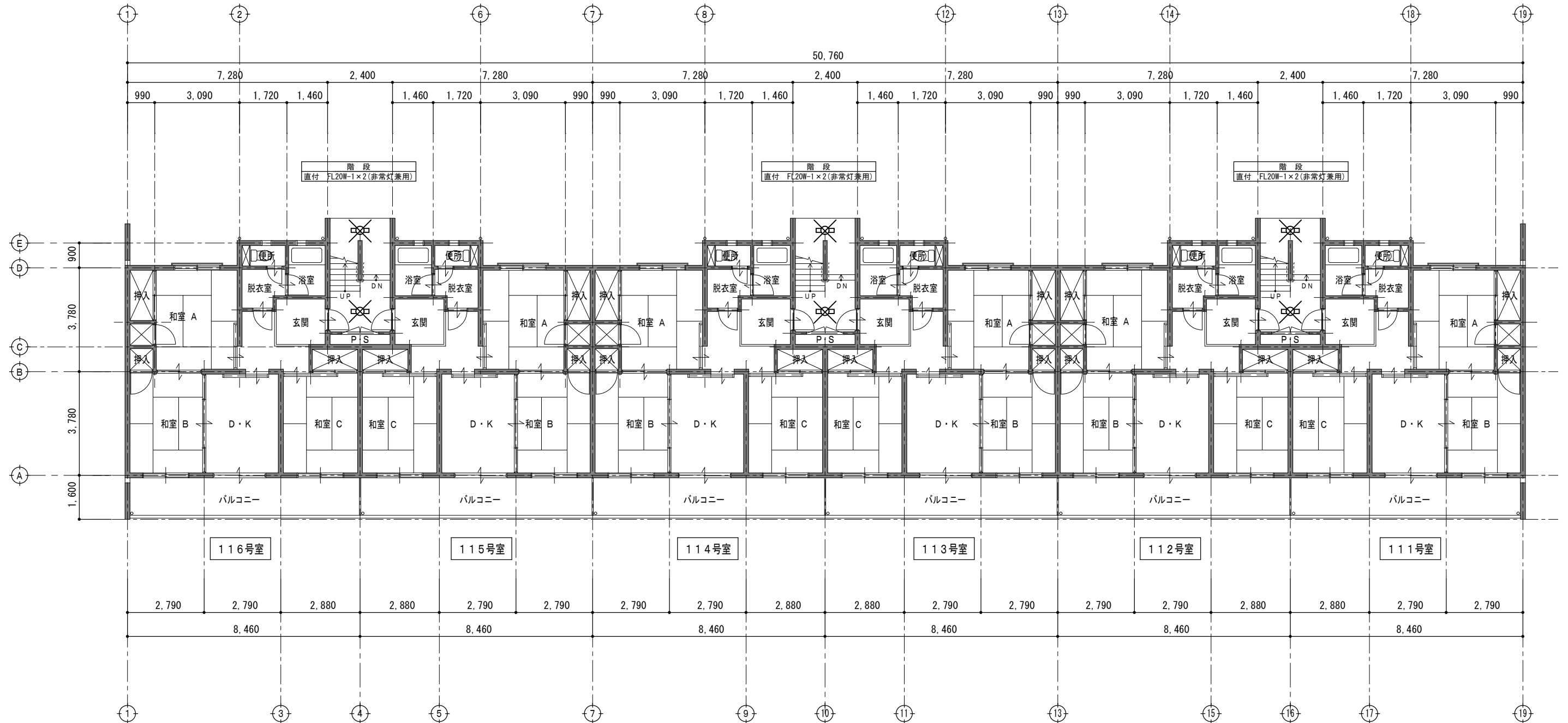
2階平面図 S=1/150

A	LEDベースライト非常用照明器具
	直付 D型 20型
	XWG201DGNCLE9 (AC100V~242V)
消費電力: 6.9W	
非常灯タイプ、800lm (FL20形×1灯具相当) 常時: 非常用ライトバー点灯、非常時: 非常灯本体組込LED (一般出力型) 点灯 電圧: 100~242V対応、蓄電池: ニッケル水素電池 非常灯評定番号: LALE-032、非常用LEDレンズ: ガラス 常用ライトバー: ポリカーボネート (乳白) + アクリルコーティング 光源寿命 (階段灯専用ライトバー) 40000時間、IP23防湿、点検スイッチ付 自己充電モニタ (緑) 付、リモコン: FSK90910K (別売)	



3階平面図 S=1/150

A	LEDベースライト非常用照明器具
	直付 D型 20型
	XWG201DGNCLE9 (AC100V～242V)
消費電力：6.9W	
非常灯タイプ、800lm (FL20形×1灯器具相当) 常時：非常用ライトバー点灯、非常時：非常灯本体組込LED (一般出力型) 点灯 電圧：100～242V対応、蓄電池：ニッケル水素電池 非常灯評定番号：LAL E-032、非常用LEDレンズ：ガラス 常用ライトバー：ポリカーボネート (乳白) +アクリルコーティング 光源寿命 (階段灯専用ライトバー) 40000時間、IP23防湿、点検スイッチ付 自己充電モニタ (緑) 付、リモコン：FSK90910K (別売)	



1階平面図 S=1/150

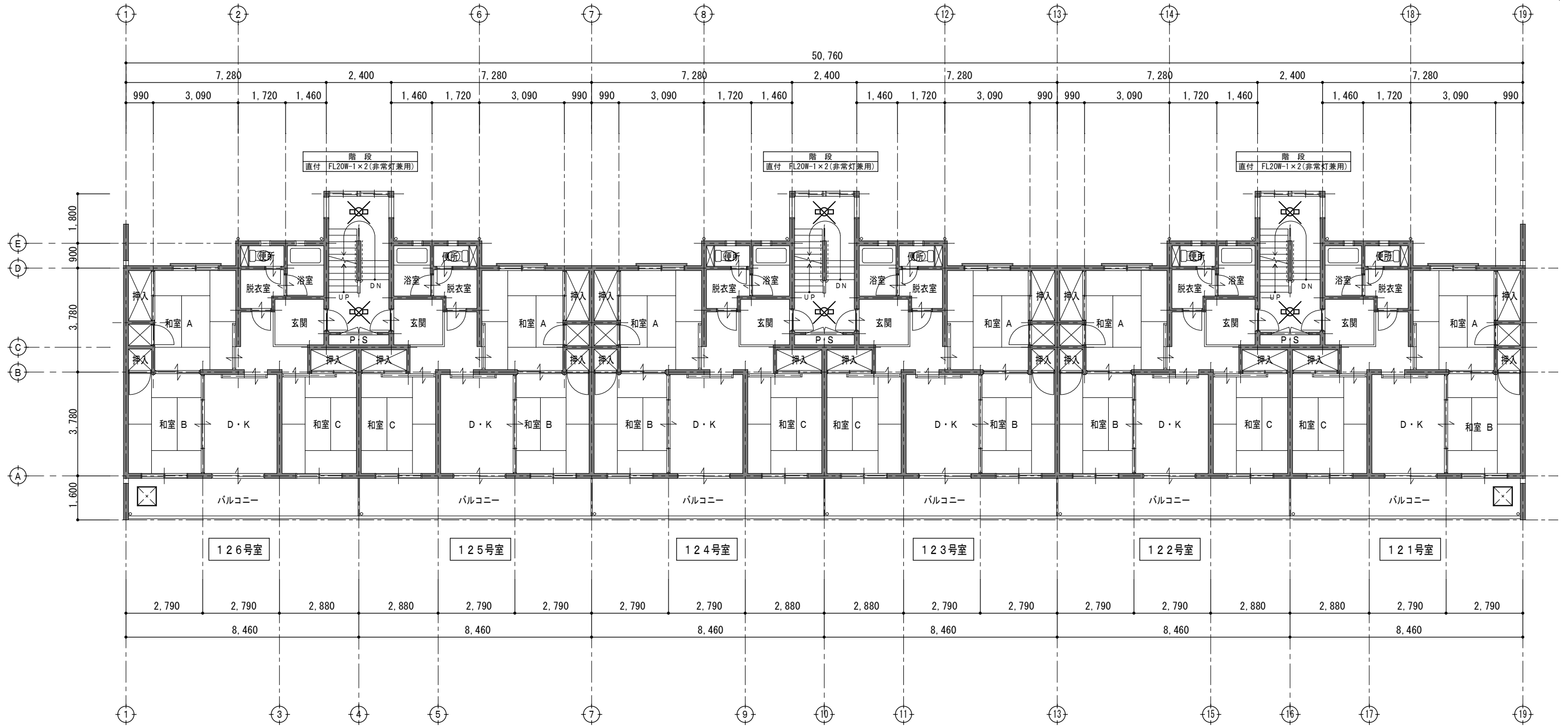
特記事項

一級建築士事務所
建築設計 大 高
栃木県知事登録 A 木 第2617号
大臣登録第200584号
一級建築士 大 高 智
栃木県那須郡那須町寺子乙3938-95 TEL0287-72-6372 FAX0287-72-7263

工事名称
前原団地1号棟屋根・外壁改修工事

図面名称
1号棟 1階階段照明撤去図

縮尺	図面番号
S=1/150	E-O 4
作図 2025.09.09	



2階平面図 S=1/150

特記事項

一級建築士事務所
H.I.D.B.O. 建築設計 大 高
栃木県知事登録 A 木 第2617号
大臣登録第200584号
一級建築士 大 高 智
栃木県那須郡那須町寺子乙3938-95 TEL0287-72-6372 FAX0287-72-7263

工事名称

前原団地1号棟屋根・外壁改修工事

図面名称

1号棟 2階階段照明撤去図

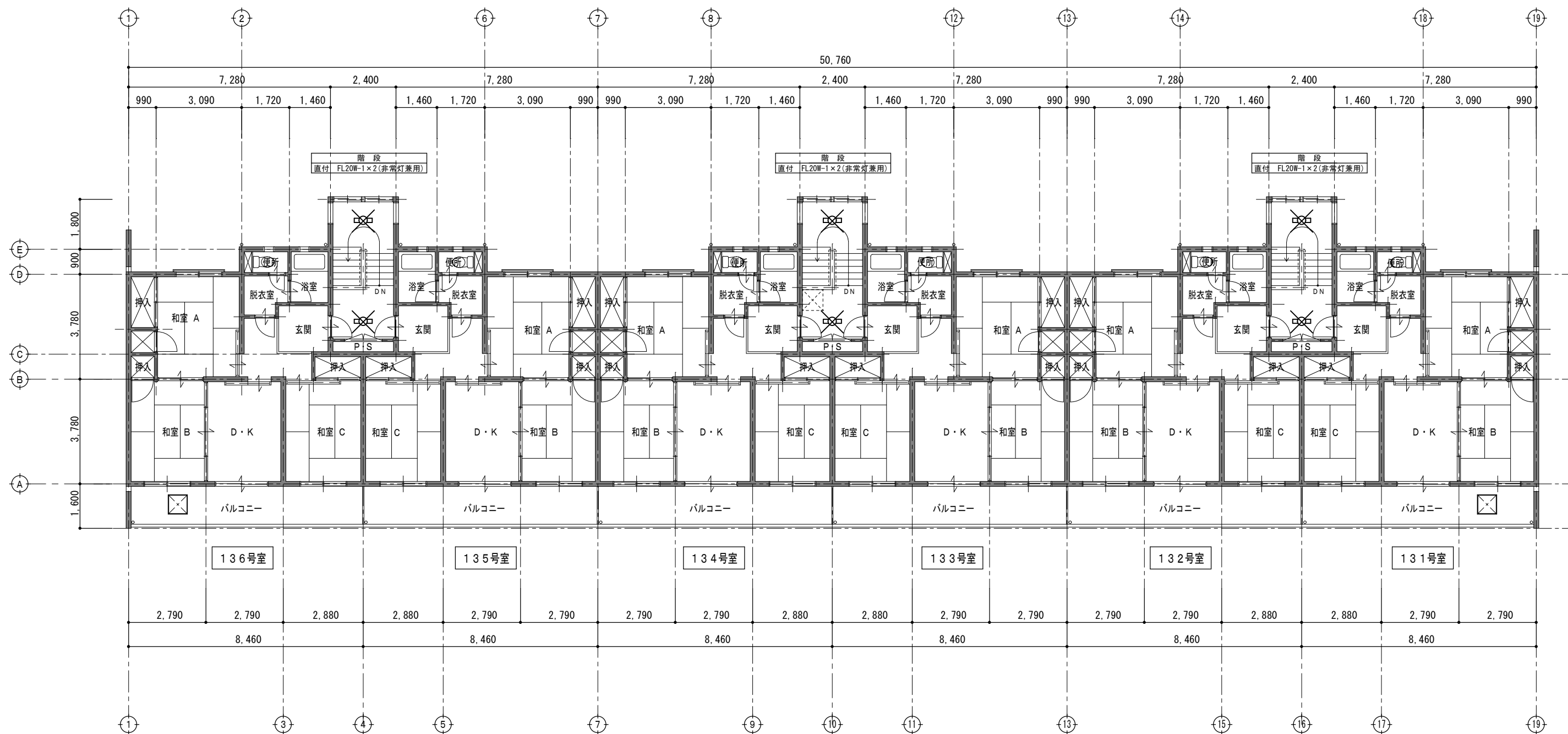
縮尺

S=1/150

作図 2025.09.09

図面番号

E-O 5



3階平面図 S=1/150

特記事項

一級建築士事務所
H.I. 建築設計 大 高
栃木県知事登録 A 木 第2617号
大臣登録第200584号
一級建築士 大 高 智
栃木県那須郡那須町寺子乙3938-95 TEL0287-72-6372 FAX0287-72-7263

工事名称

前原団地1号棟屋根・外壁改修工事

図面名称

1号棟 3階階段照明撤去図

縮尺

S=1/150

作図 2025.09.09

図面番号

E-O 6